YAMAHA

取扱説明書

⚠ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

MT-07

モーターサイクル

MT-07 Y-AMT (MTN690-S)

BSH-28199-J0●

安全運転のために 1
各部の名称 2
車両の特徴 3
スマートフォン連携システム 4
各部の取り扱いと操作 5
日常点検 6
運転操作 7
点検整備 8
お車の手入れ 9
製品仕様 10
ユーザー情報 11
索引 12

商標について

Bluetooth®のワードマーク及びロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。
iOS は、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Garmin StreetCross™は Garmin Ltd.の商標です。

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ **警 告**	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
- あなた自身と同乗者のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-5
- 環境・住民の方との調和のために 1-6

各部の名称 2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3

車両の特徴 3-1
- YRC（ヤマハライドコントロール） ... 3-1
- Y-AMT（ヤマハオートメイティドマニュアルトランスミッション） 3-2
- クルーズコントロールシステム 3-3
- ESS（緊急停止信号）システム 3-6

スマートフォン連携システム 4-1
- スマートフィーチャー 4-1
- 初期設定 4-2
- 電話 4-6
- 接続エラーが発生したときは 4-7

各部の取り扱いと操作 5-1
- キーの取り扱い 5-1
- イモビライザーシステム 5-2
- メインスイッチ 5-2
- ハンドルスイッチ 5-3
- 警告灯と表示灯 5-6
- ディスプレイ 5-9
- メニューシステム 5-18
- ABS 5-32
- フューエルタンクキャップ 5-33
- 燃料 5-34
- シート 5-35
- ヘルメットホルダー 5-37
- 書類入れ 5-37
- 小物入れ 5-37
- リヤクッションの調整 5-38
- ブレーキレバーの握り調整 5-39
- DC コネクター 5-40
- ETC コネクター 5-40
- サイドスタンド 5-40
- イグニッションサーキットカットオフシステム 5-41

日常点検 6-1
- 日常点検の実施 6-1
- 日常点検箇所／点検内容 6-1

運転操作 7-1
- ならし運転 7-1
- エンジン始動 7-1
- ギヤチェンジのしかた 7-2
- ブレーキ 7-3
- 駐車 7-4

点検整備 8-1
- 点検整備の実施 8-1
- サービスツール 8-2
- エンジンオイル 8-2
- エンジンのかかり具合、異音の点検 ... 8-4
- 低速、加速の状態の点検 8-4
- 冷却水 8-4
- エアクリーナーエレメントの交換 8-6
- タイヤ 8-6
- ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検 8-8
- ブレーキランプスイッチの点検 8-8
- ブレーキパッドの点検 8-9
- ブレーキ液量の点検 8-9
- ドライブチェーン 8-10
- ドライブチェーンの給油 8-11
- バックミラー 8-12
- 車体各部の給油脂状態の点検 8-12
- アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム） 8-13
- バッテリー 8-13
- ヒューズ交換 8-14
- 灯火装置および方向指示灯の点検 ... 8-17
- 運行において異常が認められた箇所の点検 8-17
- こんなときは 8-18

お車の手入れ 9-1
- 洗車 9-1
- アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い 9-2
- 保管のしかた 9-3
- アフターケア用品について 9-3

もくじ

製品仕様 10-1

ユーザー情報 11-1
二輪車を廃棄する場合は？ 11-1
サービスマニュアル(別売)の紹介... 11-2
車両情報 11-2

索引 12-1

安全運転のために

JAU27281

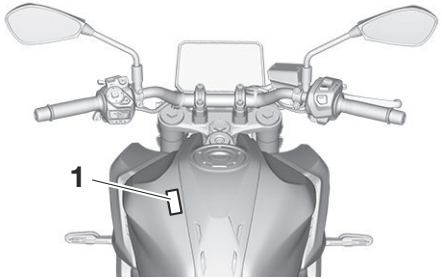
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737B

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - プロテクターを備えた保護性の高い服

で明るく目立つ色のもの
- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



● 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
- ズボンのすそや袖口の広い服
- 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





● 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
● 同乗者にも上記の注意を守らせてくださ

い。

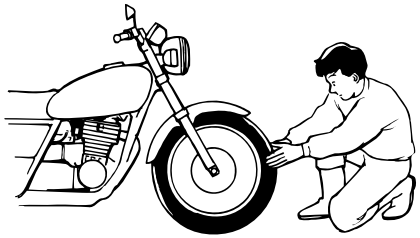
JWA11601

⚠警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。 運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

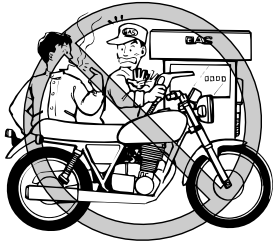
次のような場合は、車が故障しているおそれ

があります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

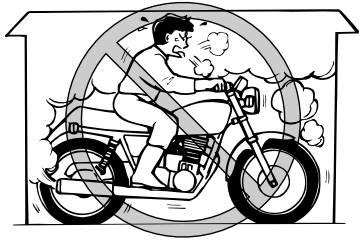
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



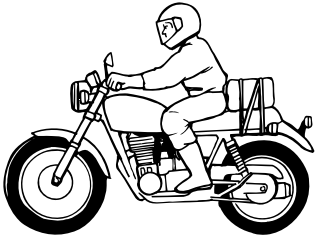
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



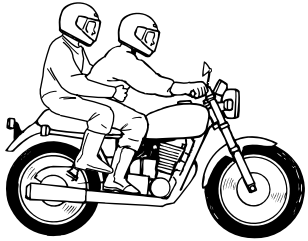
荷物はしっかり固定する

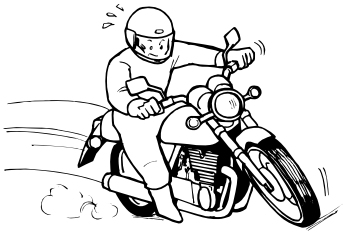


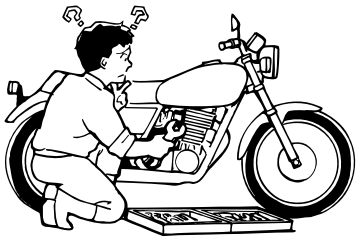
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。







乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm³以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

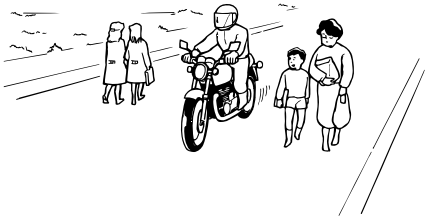


JAU27504

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



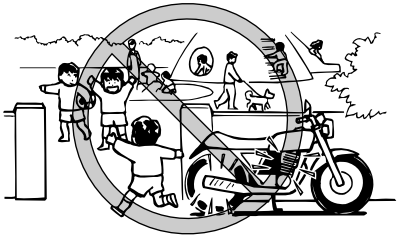
駐車

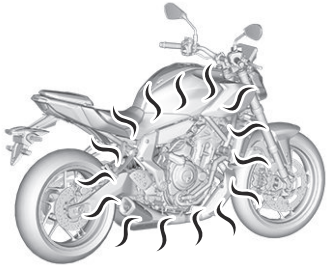
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

⚠ 警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。 また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**





昼間はヘッドライトを下向きに

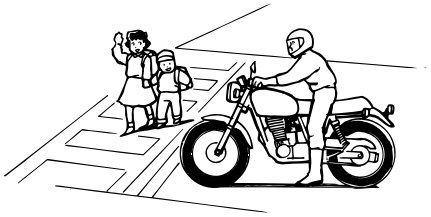
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27582

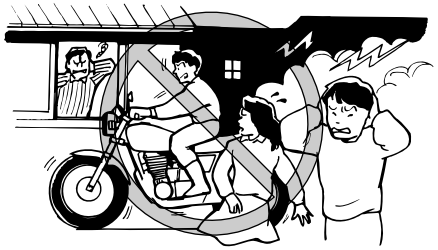
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

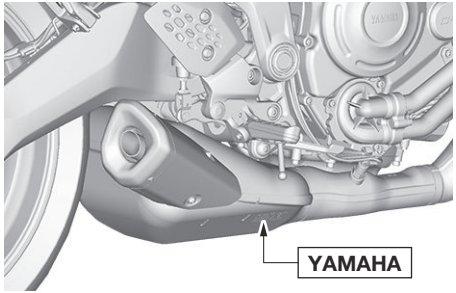


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。

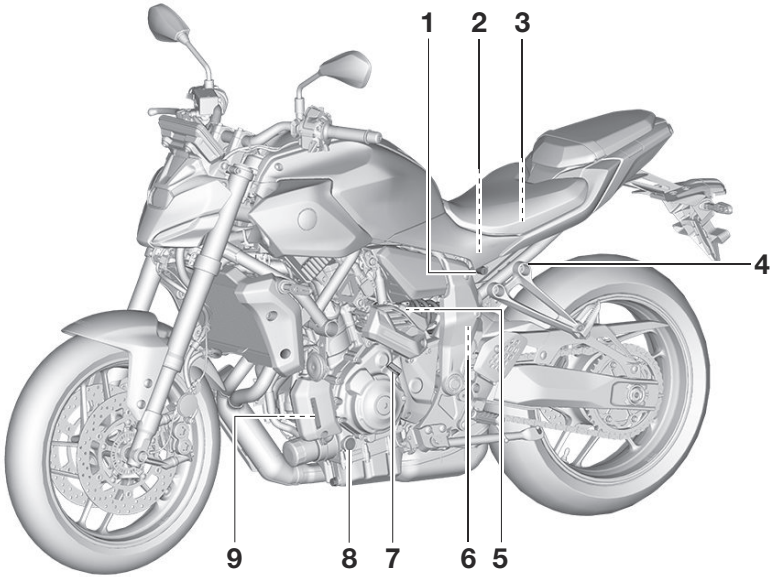


環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU10411

左側面

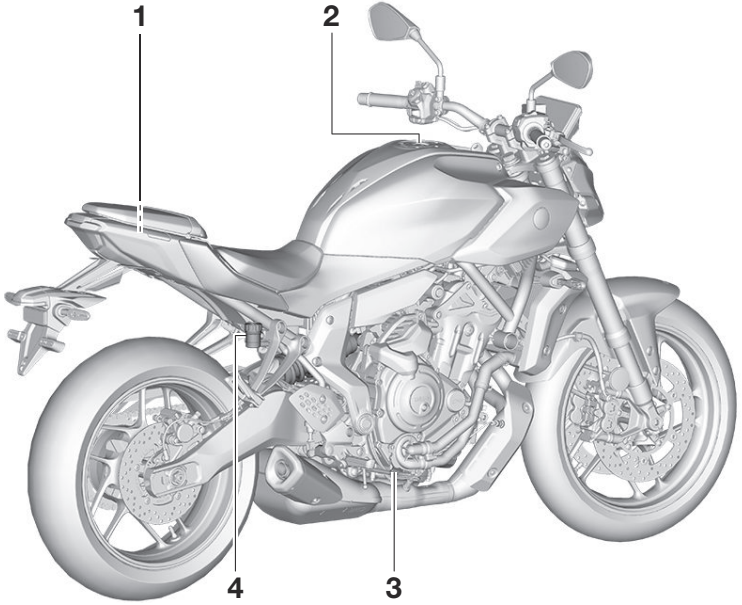


1. シートロック（P5-35）
2. バッテリー（P8-13）
3. ヒューズ（P8-14）
4. ヘルメットホルダー（P5-37）
5. スプリングプリロードアジャスター（P5-38）
6. 伸側減衰力アジャスター (P5-38)
7. オイル注入口（P8-2）
8. エンジンオイル点検窓（P8-2）
9. リカバリータンク（P8-4）

各部の名称

JAU10421

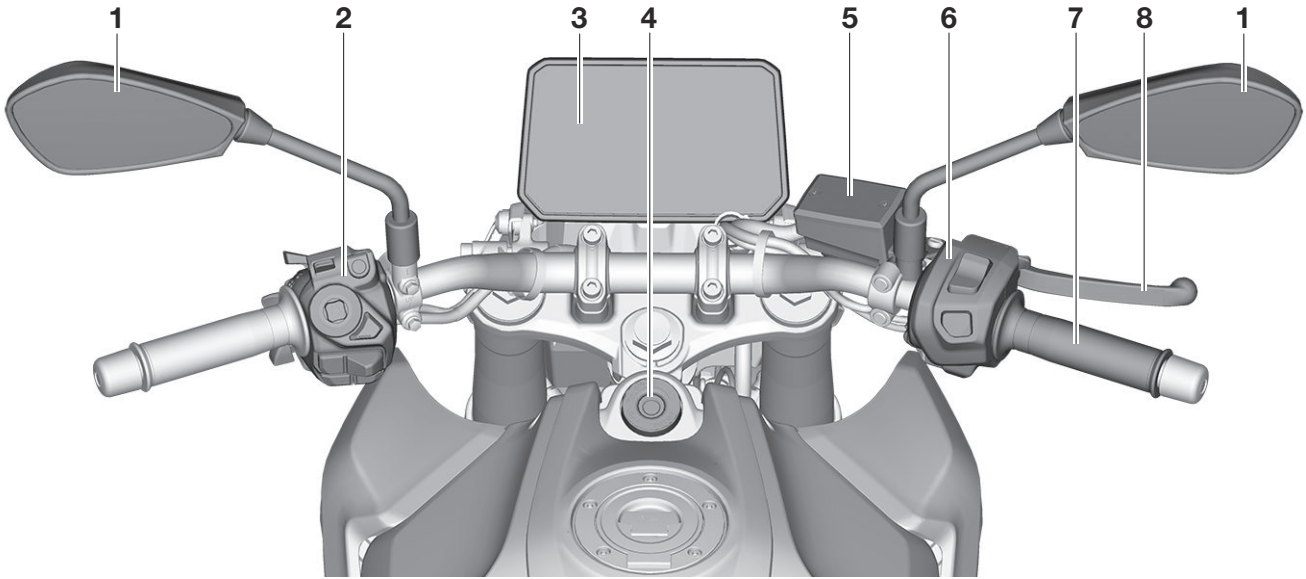
右側面



1. 小物入れ（P5-37）
2. フューエルタンクキャップ（P5-33）
3. ブレーキペダル（P8-8）
4. リヤブレーキリザーバータンク（P8-9）

JAU10431

運転装置と計器類



1. バックミラー (P8-12)
2. ハンドルスイッチ（左）(P5-3)
3. ディスプレイ (P5-6/P5-11/P5-9)
4. メインスイッチ/ハンドルロック（P5-2）
5. フロントブレーキリザーバータンク（P8-9）
6. ハンドルスイッチ（右）(P5-3)
7. スロットルグリップ
8. ブレーキレバー（P8-8）

JAUA3711

YRC（ヤマハライドコントロール）

YRC は、多くのセンサーや制御を組み合わせ、より良い走行を支援するシステムです。下記の個々の YRC 項目について、オン／オフを切り替えたり、ライダーや走行状況に合わせた調整をすることができます。設定の詳細は、メニュー画面の項目をご覧ください。（5-21 ページ参照）

JWA18221

⚠ 警 告

ヤマハライドコントロール（YRC）システムは、過度の速度超過などによる車両のコントロール不能やコーナリング時のスリップ、急カーブ走行および制動中からの急激な加速への移行といった、不適切な運転操作に対しては車輪のスリップや前輪が浮いてしまうことを防ぐことはできません。運転者自身の技量限度内で運転し、周囲の状況に応じた運転を心がけましょう。無理な走行は行わず、YRC の設定や運転操作全般に慣れるようにしましょう。

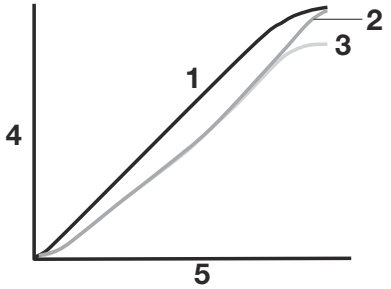
PWR（パワーデリバリーモード）

PWR は、スロットルグリップの操作量に応じてスロットルバルブの開度を調整する、3つの制御マップから構成されています。ライダーの好みや、走行状況に適したモードが選択できます。

レベル１：スポーティなエンジン出力

レベル２：スムーズなエンジン出力

レベル３：レベル２よりわずかに出力を抑えた、スムーズな Y-AMT のシフトに適したモード



1. レベル１
2. レベル２
3. レベル３
4. スロットルバルブ開度
5. スロットルグリップ操作量

TCS（トラクションコントロールシステム）

TCS は、加速時のスリップを抑制します。センサーが後輪のスリップを検知すると、スリップ状態が回復するまで、エンジン出力を制御します。

また、最適な加速のため、車両が直立しているときはトラクションコントロールシステム制御が抑えられ、コーナリング時には、強くなります。

TCS は、２段階の設定レベルがあります。設定レベルが高いほど、システム介入量が大きくなり、より後輪のスリップを抑制するようになります。

レベル１：スポーティな走行に適しています。

レベル２：濡れた路面や滑りやすい路面での走行に適しています。

要　点

- TCS は、車両が段差を乗り越えたときなどに作動することがあります。
- TCS や他のシステムが作動すると、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。
- メインスイッチをオンにすると、TCS が自動的にオンになります。TCS は、メインスイッチがオンで車両が停止している場合にのみ、手動でオン／オフを切り替えることができます。
- 泥や砂などの柔らかい路面で車両がス

タックしたときは、TCS をオフにすると後輪が抜け出しやすくなります。

JWA15433

⚠警 告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

JCA16801

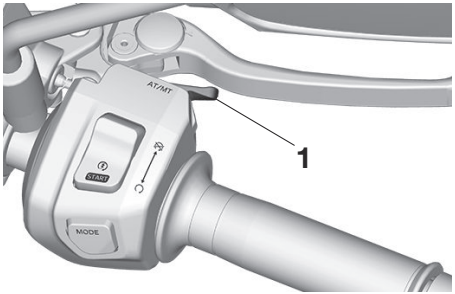
注 意

必ず指定タイヤを使用してください。（8-6 ページ参照）指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

JAUA5081

Y-AMT（ヤマハオートメイティドマニュアルトランスミッション）

この車両には、シーケンシャル 6 速ヤマハオートメイティドマニュアルトランスミッション (Y-AMT) が搭載されており、クラッチレバーやシフトペダルを操作せずにギヤチェンジすることができます。

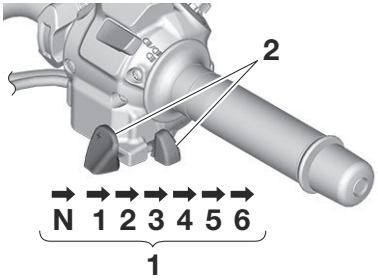


1. Y-AMT スイッチ“AT/MT”

Y-AMT には 2 つのモードがあります。
“AT”：自動変速
“MT”：左ハンドルバーにあるシフトレバーによる変速
Y-AMT スイッチ“AT/MT”を使用して“AT”モードと“MT”モードを切り替えます。（5-5 ページ参照）
現在選択されている Y-AMT モードは、Y-AMT 表示“AT”/“MT”に表示されます。（5-14 ページ参照）
“MT”には 3 つの YRC モード、“AT”には 2 つの YRC モードがあります。（5-21 ページ参照）
Y-AMT スイッチ“AT/MT”で“AT”と“MT”を切り替えると、それに応じて YRC モードも切り替わります。

要 点

- “AT”から“MT”に変更した場合、YRC モードは“STREET”になります。“MT”から“AT”に変更した場合、YRC モードは以前に設定したモードになります。
- 車両の電源がオンになると、YRC モードは“AT”かつ PWR“D”になります。



1. ギヤの位置
2. シフトレバー

シフトレバーは“AT”と“MT”の両方のモードで変速をするときに使用します。
Y-AMT は“MT”モードでも停車すると自動的に 1 速までシフトダウンします。1 速ギヤで停止すると、スロットルグリップを回すまでクラッチが自動的に切断され、停止時にニュートラルにシフトしなくてもエンジンがアイドリング状態になります。エンジンが停止すると、トランスミッションが自動的にクラッチを接続するため、車両を移動することができなくなります。
車両の電源をオフにした状態で車両をニュートラルポジションに保つには、シフトダウンしてニュートラルにしてからメインスイッチを OFF にします。
ギヤチェンジの詳細については、7-2 ページを参照してください。

要　点

- “AT”モードでシフトレバーを使用して手動で変速すると、変速完了後に再び“AT”モードに戻ります。
- Y-AMT は、エンジン回転数が高すぎたり低すぎたりすると、手動での変速ができなくなります。
- ギヤを入れた状態で車両の電源をオンにした場合、ブレーキレバーを握るまたはブレーキペダルを踏むまでギヤを変えることはできません。
- “MT”モードでは、エンジン回転数が低すぎる場合、Y-AMT が自動的にシフトダウンします。

JWA22740

⚠警 告

エンジンがかかっている場合は、車両を押さないでください。不用意にスロットルグリップが回ったり、シフトレバーが動いて、事故の原因となります。

JWA22750

⚠警 告

Y-AMT の部品に損傷や磨耗のおそれがある場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。Y-AMT には繊細な部品が含まれていますので、点検を怠ると事故の原因となります。

JAUA2991

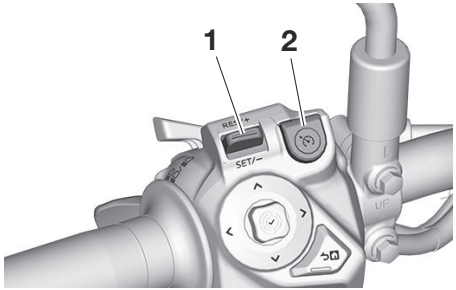
クルーズコントロールシステム

この車両は、一定のスピードを維持するためのクルーズコントロールシステムを装備しています。
クルーズコントロールシステムは、3 速以上のギヤで、約 40 km/h～180 km/h の間で走行しているときにのみ作動します。

JWA22860

⚠警 告

- **法定速度を守って走行してください。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。クルーズコントロールシステムは、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。**
- **上り坂または下り坂を走行する場合、クルーズコントロールシステムは設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。**
- **クルーズコントロールシステムを誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。クルーズコントロール表示“ ”が消灯していることを確認してください。**



1. クルーズコントロール設定スイッチ “RES/+/SET/–”
2. クルーズコントロール電源ボタン “ ”

クルーズコントロールシステムの起動

1. クルーズコントロール電源ボタン “ ” を押して、システムを起動します。クルーズコントロール表示 “ ” と速度設定表示 “0 km/h” が点灯し、システムがスタンバイ状態であることを示します。
2. クルーズコントロール設定スイッチを “SET/–” 側へ押すと、クルーズコントロールシステムが作動します。現在の速度が設定したクルージングスピードとなり、速度設定表示 “0 km/h” が緑色で表示されます。クルーズコントロール表示 “ ” も、緑色に表示されます。

要　点

クルーズコントロール表示 “ ” がオレンジ色に点灯した場合は、ヤマハ販売店に点検を依頼してください。

設定したクルージングスピードの調整

クルーズコントロールシステムが作動中に、クルーズコントロール設定スイッチの “RES/+” 側を押すと、設定したクルージングスピードが増加し、“SET/–” 側を押すと減少します。それに応じて、車速と速度設定表示 “0 km/h” に表示される速度が変わります。

要　点

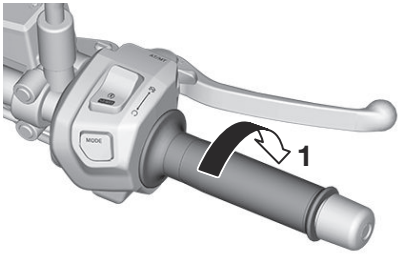
クルーズコントロール設定スイッチの “RES/+” または “SET/–” を 1 回押すと、設定速度が 1.0km/h 単位で変化します。クルーズコントロール設定スイッチの “RES/+” または “SET/–” 側を長押しした状態にすると、スイッチを離すまで連続して速度を増減できます。

スロットルを使って手動で走行速度を上げることもできます。加速後、クルーズコントロール設定スイッチの “SET/–” 側を押すことで、新しいクルージングスピードを設定することができます。新しいクルージングスピードを設定しない場合、スロットルグリップを戻すと、車両は以前に設定したクルージングスピードまで減速します。

クルーズコントロールシステムのスタンバイ状態

クルーズコントロールシステムを、スタンバイ状態にするには、以下のいずれかの操作を行います。システムがスタンバイ状態になると、クルーズコントロール表示 “ ” と速度設定表示 “0 km/h” の緑色のステータスが消灯します。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回します。



1. 減速方向

- フロントブレーキまたはリヤブレーキをかけます。

● シフトレバーでギヤチェンジをします。

要　点

クルーズコントロールが停止すると、スロットルグリップを回さない限り、走行スピードは減少します。

再開機能の使用方法

クルーズコントロールシステムを再び作動させるには、クルーズコントロール設定スイッチの“RES/+”側を押します。走行スピードは前回設定したクルージングスピードに戻ります。クルーズコントロール表示“ ”と速度設定表示“0 km/h”が緑色に点灯します。

JWA16351

⚠警　告

前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、再開機能を使用することは危険です。

クルーズコントロールの停止

クルーズコントロール電源ボタン“ ”を押すと、クルーズコントロールシステムはオフになり、クルーズコントロール表示“ / ”と速度設定表示“0 km/h / 0 km/h”が、消灯します。

要　点

クルーズコントロールシステムまたは車両の電源がオフになると、以前に設定したクルージングスピードは消去されます。新しいクルージングスピードが設定されるまで、再開機能を使用することはできません。

クルーズコントロールシステムの自動停止

クルーズコントロールシステムは、他のコントロールシステムと連動して制御されています。クルーズコントロールシステムは、以下の条件で自動的に停止します。

● クルーズコントロールシステムが設定したクルージングスピードを維持できない場合（急な坂道を上るときなど）
● ホイールスリップまたはホイールスピンが検出された場合（トラクションコントロールシステムがオンの場合、トラクションコントロールシステムが作動します。）
● スターター／エンジンストップスイッチ“ / / ”を“ ”にした場合
● エンジンが停止した場合
● サイドスタンドが下げられた場合
● トラクションコントロールシステムをOFFにした場合

上記の状態でクルーズコントロールシステムが自動停止すると、クルーズコントロール表示“ / ”と速度設定表示“0 km/h / 0 km/h”が数秒間点滅した後、消灯します。

クルーズコントロールシステムを再び使用するには、クルーズコントロール電源ボタン“ ”を押し、システムを作動させてください。

要　点

上り坂や下り坂を走行中に、クルーズコントロールシステムが設定したクルージングスピードを維持できない場合があります。

● 車両が上り坂を走行している場合、実際の走行速度が設定クルージングスピードより低くなることがあります。このような場合は、スロットルを使用して希望の走行速度まで加速してください。
● 車両が下り坂を走行している場合、実際の走行速度が設定クルージングスピードより高くなることがあります。この場合、設定スイッチで設定クルージングスピードを調整することはできません。走行速度を下げるには、ブレーキをかけてください。ブレーキをかけるとクルーズコントロールは停止されます。

JAUA1773

ESS（緊急停止信号）システム

急減速が発生した場合、このシステムが自動的に作動し、すべての方向指示灯が急速に点滅します。
これにより、車両が急速に減速していることを周囲の車両にさらに警告します。
ESS システムは、以下の条件で解除されます。

- ブレーキを解除したとき
- 急減速が検出されなくなったとき

JWA22680

⚠警 告

ESS は衝突防止システムではありません。不必要な急ブレーキは避け、安全運転をこころがけてください。

要　点

- ESS システムは、車両が時速 50 km 以上で走行しているときに急ブレーキを検知した場合にのみ作動します。
- ハザードランプがすでに作動しているときは、ESS は作動しません。
- 方向指示灯のひとつがすでに点滅しているときに ESS が作動した場合、ESS が優先され、すべての方向指示灯が急速に点滅します。
- ABS 警告灯が点灯している場合、ESS は作動しません。

スマートフォン連携システム

スマートフィーチャー

JAUA1871

JWA21412

⚠警告

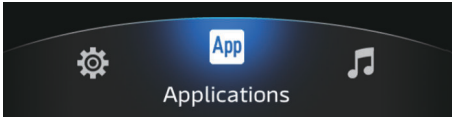
- **走行中に注意を怠ると、死亡または重傷を負うおそれがあります。常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**
- **設定を変更する場合は、必ず車両を停止してください。**
- **走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。**
- **走行中はハンドルから手を離さないでください。**
- **周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。**

この車両はスマートフォン連携システムを搭載しており、CCU（コミュニケーションコントロールユニット）を介してスマートフォンと接続することでスマートフィーチャーを使用できます。

- GPS ナビゲーション（Garmin StreetCross アプリが必要です）（4-4 ページ参照）
- 電話（4-6 ページ参照）
- オーディオプレーヤー（5-31 ページ参照）
- スマートフォンプッシュ通知（5-28 ページ参照）
- 天気（5-28 ページ参照）
- 時計自動更新（5-23 ページ参照）
- 言語設定（4-2 ページ参照）

要　点

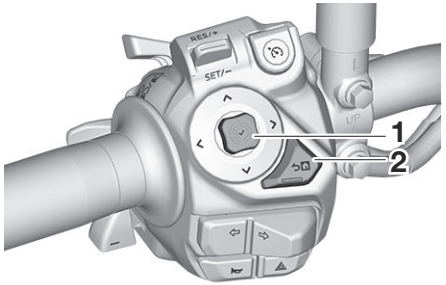
- スマートフォンの機種、OS バージョンによっては、一部の機能が利用できない場合があります。
  また、組み合わされる音楽アプリ、SNS アプリ等によっても正しく機能しない場合があります。
- 車両の電源をオンにした後、CCU とスマートフォンが Bluetooth 接続するまでに約 10 秒かかります。この間、スマートフィーチャーは利用できず、関連するメニューはグレー表示になります。



スマートフィーチャーには、メインディスプレイのメニューシステムからアクセスします。（5-18 ページ参照）メニューシステムと関連するすべての機能は、ジョイスティック／“✔”とホームボタン“⌂”を使用して操作します。（5-5 ページ参照）

はじめに、基本のメニュー操作方法をお読みください。その後、スマートフォンで初期設定と CCU への接続を行ってください。

メニューシステムの操作



1. ジョイスティック“✔”
2. ホームボタン“⌂”

この取扱説明書では、次の用語を使用してメニューの操作を説明しています。

短押し	ジョイスティックもしくはボタンを短く押します
長押し	ジョイスティックもしくはボタンを 1 秒間押します

メインディスプレイからポップアップメニューを開く
ホームボタン“”を短押しします。

メニューの操作
- ジョイスティックを左右上下に操作し、メニュー項目を選択および表示します。
- “”を短押しして項目を選択します。
- “”を短押しすると、キャンセルまたは前の画面に戻ります。
- “”を長押しして メニューを閉じます。

要　点

ナビゲーションアプリが接続されていない場合は、ナビゲーションホーム画面を表示することはできません。

Yamaha Motorcycle Connect アプリ

Yamaha Motorcycle Connect アプリは、CCU とスマートフォンを接続するための無料のアプリです。このアプリはアプリストアでダウンロードできます。

要　点

- Yamaha Motorcycle Connect アプリを使用するには、Yamaha Motorcycle Connect の利用規約とプライバシーポリシーに同意する必要があります。
- Yamaha Motorcycle Connect アプリは、スマートフォンまたは OS バージョンによっては使用できない場合があります。
- ナビゲーションや機能によっては、スマートフォンで GPS のアクセス許可を“常に許可”に設定する必要があります。
- スマートフォンの動作は機種により異なります。接続、Bluetooth 検出、アプリのアクセス許可などの設定に関しては、個々のスマートフォンで手順を確認してください。

JAUA1882

初期設定

ここではスマートフォンと CCU を接続してスマートフィーチャーを使用するための基本的な設定手順を説明します。

1. アプリケーションストアで Yamaha Motorcycle Connect アプリをダウンロードし、スマートフォンにインストールします。インストールが完了したら、Bluetooth でアプリと CCU をペアリングし接続します。

2. ナビゲーションシステムを使用するには、Garmin StreetCross アプリをダウンロードして、スマートフォンにインストールします。インストールが完了したら、Bluetooth でアプリと CCU をペアリングし接続します。



3. オーディオ、電話、ナビゲーションシステムの音声ルート案内を使用するには、Bluetooth ヘッドセットをスマートフォンにペアリングし接続します。(4-6 ページ参照)

Yamaha Motorcycle Connect アプリのペアリング

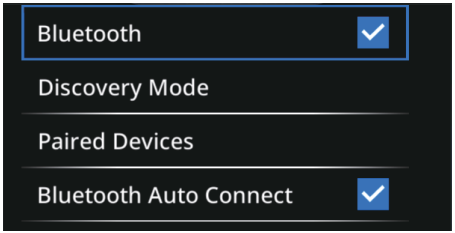
JCAN0150

注 意

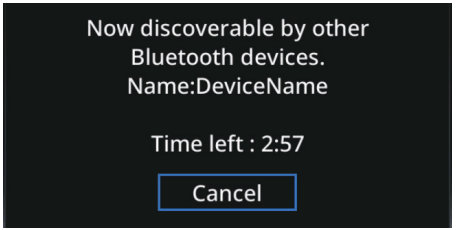
次のようなときは Bluetooth 接続が正常にできないことがあります。

- **強い電波、ノイズのある場所で操作するとき。**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。**

1. Yamaha Motorcycle Connect アプリをダウンロードして、スマートフォンにインストールします。
2. ホームボタン“⌂”を短押しして、メニューシステムから“App Applications”→“Connectivity Settings（接続設定）”→“Connection（コネクション）”→“Bluetooth”を開きます。



3. “Bluetooth”表示のとなりにチェックマークが入っていることを確認し、“Discovery Mode（デバイス検出モード）”を選択します。

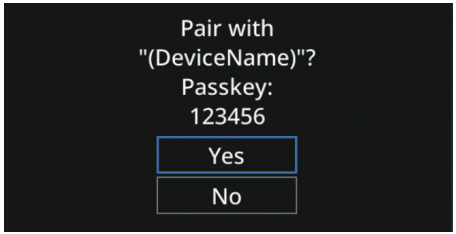


4. Yamaha Motorcycle Connect アプリを開き、ペアリング画面へ進んでください。アプリの指示に従って CCU を選択し、ペアリングを行ってください。

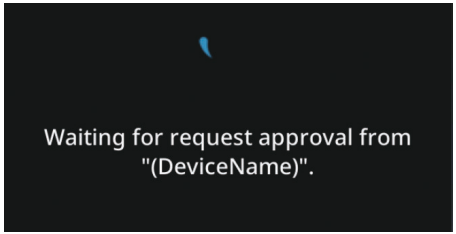
要 点

CCU をデバイス検出モードにした後は、3分以内にペアリングを行ってください。3分以内にペアリングできない場合は手順エラーになりますので、“Discovery Mode（デバイス検出モード）”に戻り、再度ペアリングを行ってください。

5. 車両のディスプレイとスマートフォンにパスキーが表示されます。パスキーが同じであることが確認できたら、ジョイスティックを操作して“Yes”をハイライト表示し、“✔”を短押しします。



6. スマートフォンにペアリングリクエストが表示されたら許可してください。



要　点

- パスキーが表示されたら 30 秒以内にペアリングを許可してください。30 秒以内にペアリングできない場合はエラーになりますので、“Discovery Mode（デバイス検出モード）”に戻り、再度ペアリングを行ってください。
- 接続されると Yamaha Motorcycle Connect アプリ表示“App”がメインディスプレイ上部と“Paired Devices（登録済みデバイス）”リストのデバイス名の横に表示されます。

要　点

- 連絡先情報を車両と共有するためのリクエストがスマートフォンに表示されます。アクセス制限や通知の権限を拒否しても、後からスマートフォンの設定で権限を許可することができます。
- Bluetooth のペアリング履歴がスマートフォンから削除された場合、再度ペアリングするには、一度“Paired Devices（登録済みデバイス）”から対応するスマートフォンのデバイス名を削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。
- Bluetooth のペアリング履歴が“Paired Devices（登録済みデバイス）”から削除された場合、再度ペアリングするには、一度スマートフォンのペアリング履歴から車両の CCU 名を削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。
- Yamaha Motorcycle Connect アプリと CCU が接続されると、メニューシステムはアプリで選択されている言語で表示されるようになります。Yamaha Motorcycle Connect アプリはスマートフォンの言語設定を利用します。スマートフォンの設定言語が CCU でサポートされていない場合の表示言語は英語になります。
- ペアリングが完了すると、自動的に Yamaha Motorcycle Connect アプリが開き、CCU に接続します。（この機能はスマートフォンや OS バージョンによって動作しない場合があります。詳細は Yamaha Motorcycle Connect アプリをご覧ください。）

ナビゲーションシステム：Garmin StreetCross

JWA21401

⚠警　告

- **ナビゲーションシステムを操作する場合は、必ず車両を停止してください。**
- **常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**



この車両はスマートフォンのナビゲーションアプリを車両に接続して、画像と音声ルート案内（別途 Bluetooth ヘッドセットが必要です）するナビゲーションシステムを使用することができます。ナビゲーションシステムの使用には、Yamaha Motorcycle Connect アプリ（無償）と Garmin 社が提供する Garmin StreetCross アプリ（無償：地図更新は有償）をアプリケーションストアからスマートフォンにダウンロードし、サービスの利用登録を行ってください。
ナビゲーションシステムの操作について詳しくは、5-16 ページを参照してください。

要　点

- Garmin StreetCross アプリを使用するには、Garmin StreetCross の利用規約に同意する必要があります。
- ヤマハ発動機は、Garmin StreetCross アプリの使用に起因するいかなる損害についても責任を負いません。
- 常に Garmin StreetCross アプリが画面に表示された状態で使用してください。別のアプリ（電話、アラームなど）が画面に表示された場合、スマートフォンがスリープ状態から自動ロックされ、Garmin StreetCross アプリ機能が停止する場合があります。
- Garmin StreetCross アプリの GPS へのアクセス許可を、スマートフォンの設定で“常に許可”に設定してください。
- Garmin StreetCross アプリは、スマートフォンまたは OS バージョンによっては使用できない場合があります。
- ルート案内中は、目的地の天気情報を表示します。目的地まで 1 時間以上かかる場合は、1 時間後に通過予定のルート上の天気情報を表示します。

Garmin StreetCross アプリのペアリング

JCAN0150

注　意

次のようなときは Bluetooth 接続が正常にできないことがあります。

- **強い電波、ノイズのある場所で操作するとき。**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。**

1. Garmin StreetCross アプリをダウンロードして、スマートフォンにインストールします。
2. Garmin StreetCross アプリを開き、“” をタップしてください。アプリの指示に従って CCU を選択し、接続を行ってください。



要　点

接続が完了すると、メインディスプレイ上部にナビゲーション接続表示“”が点灯し、“登録済みデバイス”リストのデバイス名の横に“”が表示されます。（5-29 ページ参照）

Bluetooth ヘッドセットのペアリング

ヘッドセットメーカーの指示に従ってスマートフォンとのペアリングおよび接続を行ってください。Yamaha Motorcycle Connect アプリがヘッドセットの接続を検知すると、メインディスプレイ上部にヘッドセット接続表示“”が表示されます。

要　点

ヘッドセットの音声機能を使用すると、スマートフォンと CCU の Bluetooth 接続が不安定になる場合があります。詳細は Yamaha Motorcycle Connect アプリをご覧ください。

JAUA1890

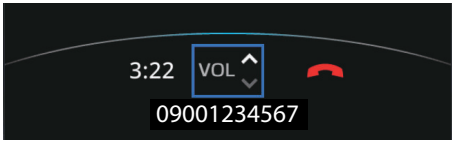
電話

この車両は、スマートフォンと Bluetooth ヘッドセットを利用して電話機能を使用することができます。この機能を使用するには、スマートフォンを CCU と Bluetooth ヘッドセットのそれぞれに接続してください。（4-2 ページ参照）

<u>電話を受ける</u>



接続されたスマートフォンに電話がかかってくると、接続されたヘッドセットから着信音が鳴り、ディスプレイ下部に電話機能（ポップアップ）が表示されます。緑色の通話アイコンを選択して“✔”を短押しすると、通話を開始します。通話中は“”アイコンが表示されます。



音量アイコンを選択してジョイスティックを上下に操作して通話音量を調整します。通話終了アイコンを選択して“✔”を短押しすると、通話が終了します。

要　点

- ハンドルスイッチを使用して通話音量を変更できないスマートフォンもあります。その場合は通話中の画面の音量調節アイコンがグレーに表示されます。
- 通話中にかかってきた別の電話を受け付けると、最初の通話は保留になります。
- スマートフォンによっては、通話中にかかってきた別の電話を拒否すると、表示のみが通話者ではなく別の電話の発信者になってしまう場合があります。
- スマートフォンによっては、通話終了アイコンがグレーに表示されたり、ジョイスティック／“✔”を操作して着信を拒否しても正しく機能せずに通話になってしまう場合があります。その場合は、スマートフォンを直接操作してください。

<u>電話をかける</u>

電話をかける場合は、スマートフォンを操作して発信してください。電話をかけるとメニューシステム内の“Phone”にある通

話画面が表示可能になり、“”アイコンがメインディスプレイ上部に表示されます。（5-31 ページ、5-14 ページ参照）通話音声は、接続された Bluetooth ヘッドセットから再生されます。

JWA21420

警告

- **走行中はスマートフォンを操作しないでください。**
- **走行中はハンドルから手を離さないでください。**
- **常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**
- **周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。**

JAU99213

接続エラーが発生したときは

スマートフォンや Yamaha Motorcycle Connect アプリおよび Garmin StreetCross アプリと CCU の接続にエラーが発生した場合、以下の画面が表示されます。



“詳細”を選択し、画面の指示に従って接続を確認してください。



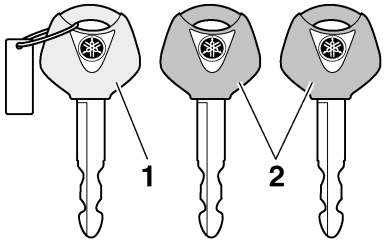
エラーが解消しない場合は、次のことを試してください。

1. 車両の電源をオフにします。20 秒後、再度車両の電源をオンにしてください。
2. スマートフォンの Bluetooth をオフにします。その後、再度車両の電源をオンにしてください。
3. スマートフォンと CCU の両方から Bluetooth のペアリング履歴を削除して、再度ペアリングを行ってください。
4. 関連するスマートフォンのアプリをすべて再起動してください。

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが 1 本とマスコット部が黒いサブキーが 2 本あります。 メインキーはサブキーの ID を登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注 意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- **メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーの ID を登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。**
- **キーを水に浸けないでください。**
- **キーを高温になる場所に置かないでください。**
- **キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。**
- **キーに電波を発信するものを近づけないでください。**
- **キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。**
- **キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。**
- **キーを分解しないでください。**
- **複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。**
- **金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。**

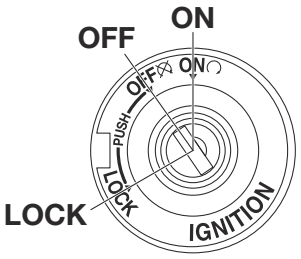
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録された ID のキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。 （詳細は 5-8 ページを参照してください。）

JAU10462

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

⚠警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU90040

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まっても車両の電源をオフにするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU46011

OFF

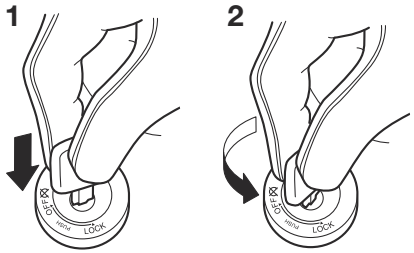
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU73803

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



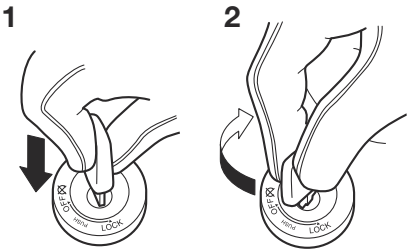
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



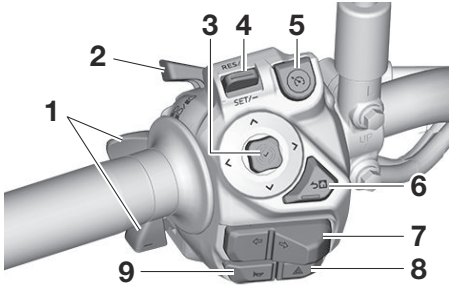
1. 押す
2. 回す

キーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

JAU6605B

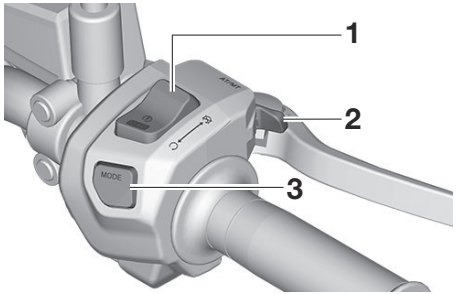
ハンドルスイッチ

<左>



1. シフトレバー
2. ヘッドライト上下切り替え/パッシングライトスイッチ “≣O/≣O”
3. ジョイスティック “✔”
4. クルーズコントロール設定スイッチ “RES/+/SET/−”
5. クルーズコントロール電源ボタン “ ”
6. ホームボタン “ ”
7. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
8. ハザードスイッチ “⚠”
9. ホーンスイッチ “ ”

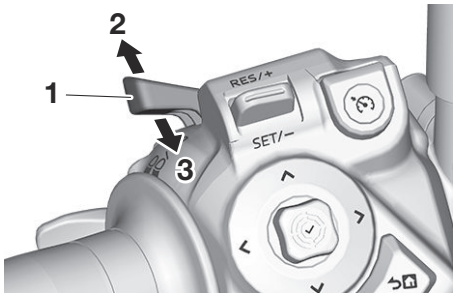
<右>



1. スターター／エンジンストップスイッチ “⊗/◯/㊣”
2. Y-AMT スイッチ “AT/MT”
3. YRC モードボタン “MODE”

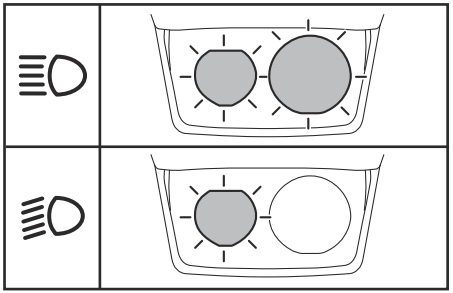
JAUA1904

ヘッドライト上下切り替え/パッシングライトスイッチ “≡D/≡D”



1. ヘッドライト上下切り替え/パッシングライトスイッチ “≡D/≡D”
2. A 方向
3. B 方向

このスイッチを外側（A 方向）に押すとハイビームになります。ロービームに戻すには、このスイッチを内側（B 方向）に押します。ヘッドライトがロービームに設定されているときに、スイッチを内側（B 方向）に押すと、パッシングします。



JAUA1741

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。軽く押すと強く押すの 2 種類の使い方があります。

軽く押す : 進路変更する側にスイッチを軽く押します。進路変更する側の方向指示灯が、3 回点滅します。

強く押す : 進路変更する側にスイッチを強く押します。進路変更する側の方向指示灯が、次の条件がすべて満たされるまで点滅し続けます。

- 約 150 m 走行する。
- 15 秒以上経過する。
- 車速が 5 km/h 以上で走行する。

JCA28520

注 意

指定の時間または走行距離以上走行しても方向指示器が自動的にオフにならない場合があります。

方向指示器を手動でキャンセルするには、同じ方向にもう一度スイッチを押します。

JAU66030

ホーンスイッチ “📯”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU94790

スターター／エンジンストップスイッチ “⊗/◯/㊣”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを “◯” に合わせてから、スイッチ

を“㊋”まで押してください。エンジンを始動させる前に、7-1 ページの始動手順を参照してください。
転倒などの非常時に、エンジンをすぐに停止させるには“⊠”にします。通常は“⊂”にしておきます。“⊠”にすると、エンジンは始動できません。

JAU91671

ハザードスイッチ“⚠”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます。（全ての方向指示器が点滅します。）
ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。
ハザードランプは、車両の電源をオンにした状態のみでオンとオフを切り替えることができます。車両の電源をオフ、または LOCK にしてもハザードランプは点滅し続けます。
ハザードランプを消灯させるには、車両の電源をオンにした状態で、ハザードスイッチを再度操作してください。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAUA1930

クルーズコントロールスイッチ

クルーズコントロールシステムの詳細については、3-3 ページを参照してください。

JAUA1941

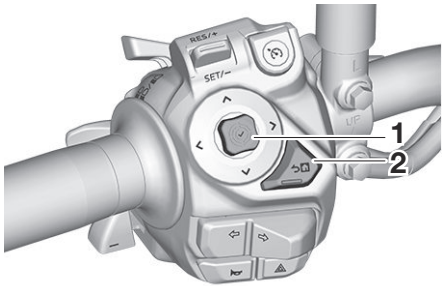
YRC モードボタン“MODE”

YRC モードを切り替えるときに、このボタンを短押しします。
Theme 1～3：このボタンを長押しすると、ディスプレイの下部に YRC モードのポップアップが開きます。
YRC モードの詳細については、5-12 ページと 5-21 ページを参照してください。

JAUA1922

ジョイスティック“✔”とホームボタン“⌂”

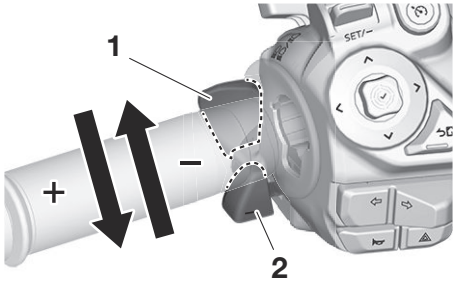
ディスプレイやメニューシステムを操作するときに使用します。
ディスプレイやメニューシステムの詳細については、4-1 ページ、5-11 ページ、5-18 ページを参照してください。



1. ジョイスティック“✔”
2. ホームボタン“⌂”

JAUA2720

シフトレバー



1. シフトレバー“+”
2. シフトレバー“-”

シフトレバーは、Y-AMT にギヤチェンジをする信号を送ります。“+”方向に押して放す

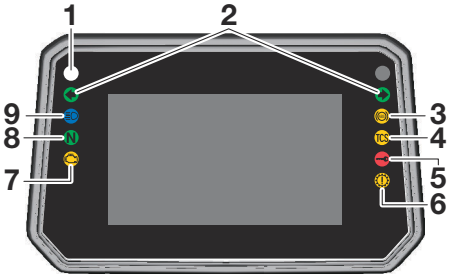
と、シフトアップします。
“–”方向に押して放すと、シフトダウンします。

JAUA2730

Y-AMT スイッチ“AT/MT”
このスイッチは、Y-AMT モードの“AT”（自動変速）と“MT”（手動変速）を切り替えます。

JAUA5930

警告灯と表示灯



1. シフトタイミングインジケーターランプ“○”
2. 方向指示器表示灯“◀”／“▶”
3. ABS 警告灯“ABS”
4. トラクションコントロールシステム表示灯“TCS”
5. イモビライザーシステム表示灯“🔑”
6. Y-AMT 故障表示灯“!”
7. エンジン警告灯“🔧”
8. ニュートラルランプ“N”
9. ヘッドライト上向き表示灯“≡D”

JAUA1910

方向指示器表示灯“◀”／“▶”
方向指示器に合わせて点滅します。

JAU88300

ニュートラルランプ“N”
ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU88310

ヘッドライト上向き表示灯“≡D”
ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU88331

エンジン警告灯“🔧”
エンジン異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要　点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

注 意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

要　点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告灯が点灯する場合があります。故障以外の

原因による警告灯の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。
- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペンション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。
- ドライブチェーン、スプロケット、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。
- O2 センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- ドライブチェーンを正しくメンテナンスしてください。
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- ブレーキペダルの高さを正しくメンテナンスして、リヤブレーキを引きずらないようにしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウト、ウィーリーや、半クラッチの多用などの行為はしないでください。

JAUA2742

Y-AMT 故障表示灯 “ ”

Y-AMT システムに異常が発生したとき、この表示灯が点灯または点滅します。
表示灯が点滅している場合、車両を運転することはできますが点検が必要になります。ヤマハ販売店で点検を受けてください。
表示灯が点灯したままの場合は、エンジンを始動したり、車両を運転したりしないでください。
走行中に Y-AMT 故障表示灯が点灯したときは、Y-AMT システムが正常に作動していないおそれがあります。
- 使用中のギヤからギヤチェンジできなくなる場合があります。
- この場合、クラッチがつながったままになっているため、停車の際に振動を感じる場合があります。

安全を確認して車両を停止し、交通の妨げにならない場所に駐車してください。Y-AMT システムの点検はヤマハ販売店にご依頼ください。

要　点

ギヤチェンジができない場合は、8-18 ページに記載されている方法を使用してニュートラルにギヤチェンジし、車両を移動できるようにしてください。

車両の電源をオンにすると、Y-AMT 故障表示灯 “ ” が数秒間点灯し、その後消灯します。
表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU91500

ABS 警告灯 “ ”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

要　点

警告灯が点灯しなかったり、走行中に警告灯が点灯する場合は直ちにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

JWA21120

⚠警 告

5 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯し

たとき:

- **急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。**
- **直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。**

JAUA3792

トラクションコントロールシステム表示灯“TCS”

TCS（トラクションコントロールシステム）がオフに設定されている場合、この表示灯が点灯します。
走行中に TCS（トラクションコントロールシステム）が作動すると、この表示灯が点滅します。

要　点

車両の電源をオンにすると、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAUA2750

シフトタイミングインジケーターランプ“○”

シフトアップのタイミングをお知らせします。ランプが点灯または消灯するエンジン回転数や点灯に関する設定を、ポップアップメニューで調整することができます。（詳しくは 5-24 ページを参照してください。）

要　点

- シフトタイミングインジケーターランプは、ギヤが“AT”モードまたはニュートラルもしくは 6 速の場合は作動しません。
- 車両の電源をオンにしたとき、インジケーターランプが数秒間点灯し、その後消灯します。インジケーターランプが全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU88350

イモビライザーシステム表示灯“”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。車両の電源をオフにすると、イモビライザーシステムが機能し、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーキーの認証エラー

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーの ID の認証が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

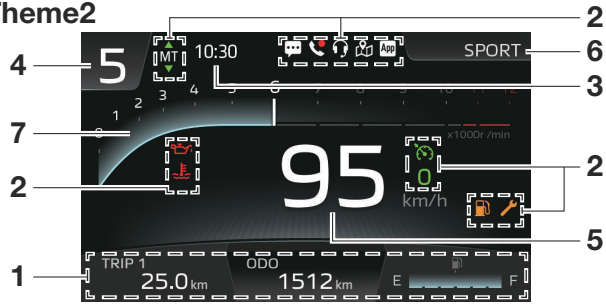
JAUA1864

ディスプレイ

Theme1



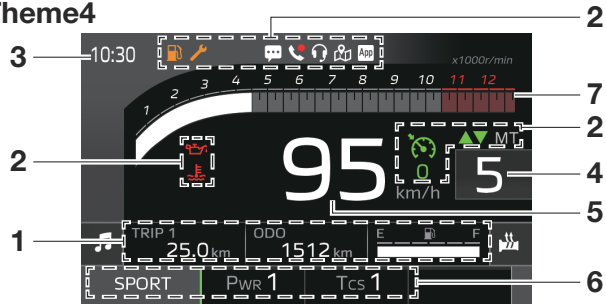
Theme2



Theme3



Theme4



1. インフォメーションディスプレイ
2. 表示アイコン
3. 時計
4. ギヤポジション表示
5. スピードメーター
6. YRC モード表示
7. タコメーター

メニューシステムまたはナビゲーション機能の使用中

メニューシステムまたはナビゲーション機能を開いている場合、ディスプレイの情報は図のように表示されます。

Theme1, 2, 3



Theme4



1. 表示アイコン
2. インフォメーションディスプレイ
3. ギヤポジション表示
4. 時計
5. スピードメーター
6. YRC モード表示
7. タコメーター

JAUA3690

要　点

- ディスプレイ画面の明るさは、メニューシステムの設定で調整できます。（5-23 ページ参照）
- ディスプレイ画面が高温になると、損傷を避けるために自動的に暗くなり、明るさ調整もできなくなります。
- このモデルは TFT 液晶により、様々な光源下での良好なコントラストおよび見やすさを実現しています。場合によっては少し見えにくい部分が出ることもあります。
- 表示単位は、キロメートルとマイル、°C（摂氏）と°F（華氏）を切り替えることができます。（5-24 ページ参照）
- ナビゲーションシステムの表示単位は、Garmin StreetCross アプリを使用して個別に変更できます。
- 走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

ディスプレイシステムの操作

ディスプレイはジョイスティック／“✔”とホームボタン“⌂”で操作できます。（5-5 ページ参照）それぞれの操作には、さまざまな状況に応じた機能があります。詳細については、以下をご確認ください。

ジョイスティックを上下左右に操作
メインディスプレイの場合：インフォメーションディスプレイと YRC モード表示 (Theme4) の項目をハイライト表示し、調整をします。
ナビゲーションディスプレイの場合：地図のズーム調整をします。
ターンバイターン表示（ポップアップ）の場合：表示情報を左右に調整をします。
メニューシステム表示の場合：さまざまなメニュー項目をハイライト表示し、調整をします。

“✔”を短押し
メインディスプレイの場合：インフォメーションディスプレイと YRC モード表示 (Theme4) の項目をハイライト表示し、選択します。
ナビゲーションディスプレイの場合：“Navigation”メニュー画面を直接開きます。
メニューシステム表示の場合：ハイライト表示されたメニュー項目を選択します。

“✔”を長押し
ハイライト表示されたインフォメーションディスプレイの項目が点滅している場合：項目をリセットします。
スマートフォンが音楽プレーヤーアプリを接続している場合：音楽を再生／一時停止します。

ホームボタン“⌂”を短押し
メインディスプレイまたはナビゲーションディスプレイの場合：ポップアップメニューを開きます。
メニューシステム表示の場合：キャンセルまたは前の画面に戻ります。

ホームボタン“⌂”を長押し
メインディスプレイの場合：ナビゲーションディスプレイに切り替わります。
ナビゲーションディスプレイの場合：メインディスプレイに切り替わります。
メニューシステム表示の場合：直前に開いていたメインディスプレイまたはナビゲーションディスプレイに戻ります。

時計
この時計は 12 時間表示です。時刻はスマートフォンを接続すると自動的に更新されますが、“Settings” → “Clock” で手動設定することもできます。(5-23 ページ参照)

スピードメーター
車両の速度を示します。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。

JCA10032

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
レッドゾーン: 10500 r/min 以上

ギヤポジション表示
選択しているギヤポジションが表示されます。この車は 6 段変速です。ギヤがニュートラルのときは、ニュートラルランプ “N” が点灯し、ギヤポジション表示に “N” が表示されます。

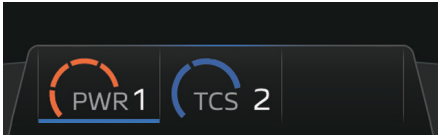
YRC モード表示
YRC モード表示は、“SPORT”、“STREET”、“CUSTOM”、“D”、“D+” のうち、どの YRC モードが選択されているか表示されます。
YRC モードボタン “MODE” で選択し、メニューシステムでカスタマイズできます。(5-21 ページ参照)

要 点

- 選択できる YRC モードは、現在の Y-AMT モード (“AT” / “MT”) により異なります。
- “CUSTOM” は Yamaha Motorcycle Connect アプリから名前をカスタマイズすることができます。

Theme4 :
このテーマでは、各 YRC モードの現在の “PWR”、“TCS” の設定が表示されます。YRC モードボタン “MODE” を使用するほか、ジョイスティックを上下に操作することでインフォメーションディスプレイと YRC モード表示を切り替えることができます。ハイライト表示されているときに “✔” を短押しして、YRC モード表示を選択します。ジョイスティックを左右に操作して項目を移動します。ジョイスティックを上下に操作して、ハイライト表示された YRC モードを切り替えたり、項目の設定を変更します。

Theme1-3 :



YRC モードボタン “MODE” を長押しすると、画面下部に YRC モード (ポップアップ) が表示されます。YRC モード (ポップアップ) が開いている間に、YRC モードボタン “MODE” を短押しして項目を切り替え、ジョイスティックを使用して個々の項目を調整します。

要 点

選択した YRC モードがカスタマイズ可能な場合、ジョイスティックを使用して “PWR” と “TCS” でハイライト表示されている項目を調整できます。

YRC モードの詳細は、3-1 ページを参照してください。

インフォメーションディスプレイ

インフォメーションディスプレイには、次の項目から 3 つ表示するように設定できます。

- オドメーター (ODO)
- トリップメーター (TRIP 1 / TRIP 2)
- フューエルトリップメーター (TRIP F)
- 瞬間燃費 (INST FUEL)
- 平均燃費 (AVG FUEL)
- 航続可能距離 (RANGE)
- 水温計 (COOLANT)
- 気温計 (AIR)
- 走行時間 (TRIP TIME)
- 燃料計

Theme1-3：

- ジョイスティックを左右に操作して項目を移動します。ハイライト表示された項目でジョイスティックを上下に操作すると、表示が切り替わります。ハイライト表示された項目が点滅している場合は、“✔”を長押しするとリセットされます。
- メニューシステムの “Ⓜ Vehicle Info” でも設定ができます。

Theme4：

ジョイスティックを上下に操作してインフォメーションディスプレイと YRC モード表示を切り替えます。インフォメーションディスプレイがハイライト表示された “✔” を短押しして選択します。ジョイスティックを左右に操作して項目を移動します。ハイライト表示された項目でジョイスティックを上下に操作すると、表示が切り替わります。ハイライト表示された項目が点滅している場合は、“✔” を長押しするとリセットされます。

要　点

- メニューシステムから “⚙Settings” → “Information / Reset” を開くと、リセット可能な項目を個別に表示し、リセットすることができます。(5-19 ページ参照)
- ナビゲーションディスプレイの場合、メニューシステムから “Ⓜ Vehicle Info” を開き、2 つの項目をハイライト表示することができます。

オドメーター (ODO)

車両の総走行距離が表示されます。

要　点

オドメーターは最大値 999999 で固定され、リセットできません。

トリップメーター (TRIP 1 / TRIP 2)

“TRIP 1” と “TRIP 2” は、ゼロにリセットされてからの走行距離が表示されます。“TRIP 1” と “TRIP 2” は、9999.9 に到達するとゼロにリセットされ、カウントを続けます。

フューエルトリップメーター (TRIP F)

燃料タンクの予備レベルに達すると、“TRIP F” が表示され、その時点からの走行距離の記録を開始します。フューエルトリップメーターは、給油後ある程度の距離を走行すると自動的にリセットされます。

要　点

フューエルトリップメーターが無効な場合は “--.-” と表示されます。

瞬間燃費 (INST FUEL)

表示単位がキロメートルの場合、瞬間燃費は “km/L” または “L/100km” に設定できます。(5-24 ページ参照)

表示単位がマイルの場合、瞬間燃費は “MPG” で表示されます。

平均燃費 (AVG FUEL)
表示単位がキロメートルの場合、平均燃費は“km/L”または“L/100km”に設定できます。(5-24 ページ参照)
表示単位がマイルの場合、平均燃費は“MPG”で表示されます。

航続可能距離 (RANGE)
現在の走行状況と燃料残量を考慮し、走行可能距離の予測値を表示します。

水温計 (COOLANT)
冷却水の温度を、-30 °C から 130 °C まで 1 °C 刻みで表示されます。

要　点

- 冷却水の温度が -30 °C 未満の場合、“-30”と表示されます。
- 冷却水の温度が上限に達した場合、“Hi”と表示されます。

気温計 (AIR)
気温を、-9 °C から 50 °C まで 1 °C 刻みで表示されます。表示される温度は、走行状態によって車両温度の影響を受けるため、外気温と一致していない場合があります。

要　点

- 計測された気温が -9 °C 未満の場合、“---”と表示されます。
- 計測された気温が 50 °C 以上の場合、“---”と表示されます。

走行時間 (TRIP TIME)
エンジンの稼働時間が表示されます。

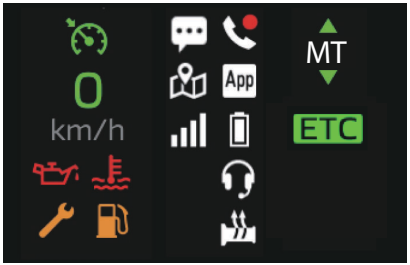
燃料計
フューエルタンク内の燃料残量を示します。燃料が減るにつれて、表示セグメントが“F”(満)から“E”(空)に向けて減っていきます。最後のセグメントが点滅を始めたときは、速やかに給油してください。

JCAE0121

注 意

燃料を完全に使い切らないでください。触媒が損傷するおそれがあります。

警告アイコンと表示アイコン



Y-AMT 表示“AT”／“MT”
Y-AMT の状況がアイコンと矢印で表示されます。
AT：自動変速モード
MT：マニュアル変速モード
▲：現在シフトアップできません。
▼：現在シフトダウンできません。
▲：シフトアップが可能です。
▼：シフトダウンが可能です。

要　点

Y-AMT の詳細は、3-2 ページを参照してください。

低燃料表示“⛽”
フューエルタンク内の燃料残量が約 2.0 L

以下になると点灯します。

水温警告 “”
エンジン冷却水温が高温になると、点灯します。車両を停止させてエンジンをオフにし、エンジンを冷やしてください。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けないでください。

油圧警告 “”
エンジン運転中に油圧が低下すると、点灯します。車両の電源をオンにしたときは、エンジン油圧が掛かっていないため、エンジンを始動するまで点灯します。

要 点

異常が検知されると、繰り返し点滅します。

JCA26410

注 意

油圧が低下している場合、エンジンの使用を続けないでください。

補助システム警告 “”
エンジン以外のシステムに異常が検知されると、点灯します。

ネットワーク接続表示 “”
接続されているスマートフォンのネットワーク接続状態を示します。
アイコンなし：スマートフォンが接続されていません。
：スマートフォンは接続されていますが、ネットワークに接続されていません。
：スマートフォンが接続されており、ネットワークに接続されています。アイコンのセグメントは電波の強度を示します。

要 点

スマートフォンによっては、ネットワークに接続できていても電波の強度が表示されない場合があります。

スマートフォンのバッテリー残量レベル表示 “”
接続されているスマートフォンのバッテリー残量レベルを示します。
アイコンなし：スマートフォンが接続されていません。
：中央のバーが上下に動き、バッテリーの残量を示します。
：スマートフォンは充電中です。

要 点

アイコンのバッテリー残量表示は接続しているスマートフォンのバッテリー残量表示と一致していない場合があります。

ヘッドセット接続表示 “”
Bluetooth ヘッドセットが車両に接続されると表示されます。

要 点

スマートフォンによっては、この表示は着信中に消灯する場合があります。

Yamaha Motorcycle Connect アプリ表示 “App”
Yamaha Motorcycle Connect アプリが車両に正常に接続されると表示されます。
App：接続しているスマートフォンが高温になるとアイコンが黄色に変わります。

要 点

スマートフォンによっては、高温状態が解消してもアイコンが黄色のままになる場合があります。

ナビゲーション接続表示 “”
Garmin StreetCross アプリが接続される

と表示されます。

電話表示“ ”/“ ”
通話中は緑色、不在着信があった場合は赤色のアイコンが表示されます。メニューシステムの“Applications”→“電話”から直近の発着信履歴を開くと、不在着信のアイコンは消灯します。

通知表示“ ”
接続されているスマートフォンが SNS やメールなどの通知を受信したときに表示されます。車両の電源をオフにするまでアイコンは点灯したままになります。メニューシステムの“Applications”→“通知”から通知を確認すると、アイコンは消灯します。

要　点

- この機能は、スマートフォンの Yamaha Motorcycle Connect アプリが CCU に接続されている場合にのみ使用できます。
- 通知を表示するには、スマートフォンで Yamaha Motorcycle Connect アプリが通知にアクセスすることを許可する設定が必要になります。

グリップウォーマー表示“ ”（装備している場合）
グリップウォーマーは、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。3 つの温度設定があり、それぞれが 10 段階の温度レベル間で調節できます。（5-32 ページ参照）
アイコンには、現在の設定状況が表示されます。
：切
：低
：中
：高

JCA17932

注　意

- **グリップウォーマーを使用するときは、必ずグローブを着用してください。**
- **暖かい日は、グリップウォーマーを使用しないでください。**
- **ハンドルバーグリップまたはスロットルグリップが摩耗したり破損したりした場合は、グリップウォーマーの使用を止め、グリップを交換してください。**

ETC 表示“ETC”（装備している場合）
ETC 車載器を接続すると、車載器の状態が表示されます。
車載器が利用できる時は緑色、利用できない時は赤色で“ETC”が表示されます。

クルーズコントロール表示“ / / ”
クルーズコントロールシステムが待機中の場合、点灯します。また、クルーズコントロールシステムが作動中の場合は緑色、異常がある場合はオレンジ色に点灯します。
クルーズコントロールシステムの詳細については、3-3 ページを参照してください。

速度設定表示“0 km/h / 0 km/h”
クルーズコントロールシステムの現在の設定速度を表示します。クルーズコントロールシステムが待機中の場合に点灯し、作動すると緑色に変わります。
クルーズコントロールシステムの詳細については、3-3 ページを参照してください。

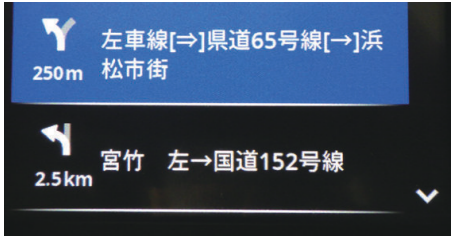
ナビゲーションディスプレイ
ナビゲーションには“標準表示”、“ターンバイターン表示”、“ターンリスト表示”の 3 種類のルート案内表示があります。

標準表示



ジョイスティックを上下に操作すると、画面が拡大縮小します。

ターンリスト表示



ジョイスティックを上下に操作すると、案内リストが上下します。

ターンバイターン表示



ジョイスティックを左右に操作するとディスプレイ下部に表示される情報が、目的地までの残りの距離／到着までの予想時間／現在地の間で順番に表示されます。

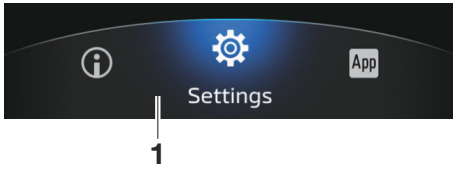
“✔”を短押ししてメニューシステムから“Applications”→“ナビゲーション”→“表示切替”を開くと、ルート案内表示を変更することができます。（5-25 ページ参照）

要　点

- Bluetooth の通信が不安定になると、ナビゲーションディスプレイが自動的にターンバイターン表示に切り替わったり、地図を読み込みの中の画面になったりします。通信が回復すると元のナビゲーションディスプレイに戻ります。
- スマートフォンによってはルート案内中に通話機能を使用すると、ナビゲーションディスプレイに戻った時に接続エラー画面が表示される場合があります。その場合は、“接続エラーが発生したときは”を確認してください。（4-7 ページ参照）
- 接続しているスマートフォンの AI アシスタント機能が無効になっている時にヘッドセットを接続すると、ナビゲーションのホーム画面に接続エラー画面が表示される場合があります。（iOS のみ）

メニューシステム

JAUA3700



1. ポップアップメニュー

この車両のメニューシステムは、左側のハンドルにあるジョイスティックとホームボタンで操作できます。(5-5 ページ参照)
メインディスプレイ下部にポップアップメニューが開きます。メニュー項目はポップアップメニューにアイコンで表示されます。

メインディスプレイからポップアップメニューを開く
ホームボタン“⌂”を短押しします。

メニューの操作
- ジョイスティックを左右上下に操作し、メニュー項目を選択および表示します。
- “✔”を短押しして項目を選択します。
- “⌂”を短押しすると、キャンセルまたは前の画面に戻ります。
- “⌂”を長押ししてメニューを閉じます。

要　点

メニューアイコンに“∧”／“∨”が表示されたときは、ジョイスティックを矢印の方向に操作すると、選択した機能の表示ができます。

ポップアップメニューには、次の主な機能があります。

Theme	ディスプレイのビジュアルテーマを選択します。(5-18 ページ参照)
Vehicle Info	インフォメーションディスプレイの各項目のリセットと表示切替をします。(5-19 ページ参照)
Settings	車両の操作に関連する設定を変更します。(5-19 ページ参照)
Applications	スマートフォン連携の機能を表示します。(5-25 ページ参照)
Phone (着信時と通話中のみ)	通話するための電話機能を表示します。(5-31 ページ参照)
Music	ポップアップ音楽プレーヤーを表示します。(5-31 ページ参照)
Turn-by-Turn	ターンバイターンのルート案内を開始します。(5-31 ページ参照)
Turn-by-Turn OFF	ターンバイターンのルート案内を終了します。(5-31 ページ参照)
Navigation	ナビゲーションディスプレイを開きます。(5-32 ページ参照)
Meter Display	メインディスプレイを開きます。(5-32 ページ参照)
Grip Warmer (装備している場合)	グリップウォーマーの温度を調節します。(5-32 ページ参照)

要　点

- 車両が動いているときは、“Theme”と“Settings”はグレー表示になります。
- スマートフォンが車両に接続されていない場合は、“Music”と“Turn-by-Turn/Turn-by-Turn OFF”はグレー表示になります。

Theme

メインディスプレイのビジュアルテーマは、4 つのテーマから選択できます。(5-9 ページ参照)

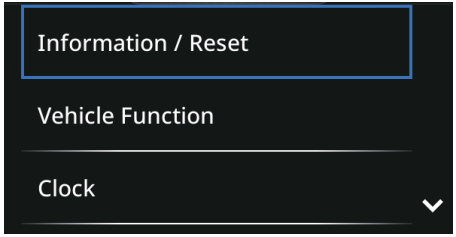
Vehicle Info

インフォメーションディスプレイに表示される項目を変更できます。(5-13 ページ参照)

要　点

Theme4 の場合、この項目はポップアップメニューにありません。

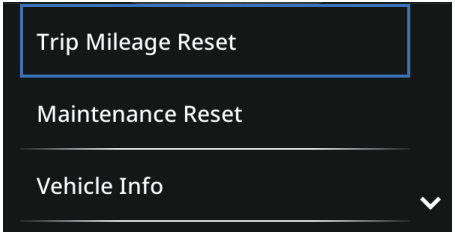
Settings



“Settings”メニューには、次の項目が表示されます。

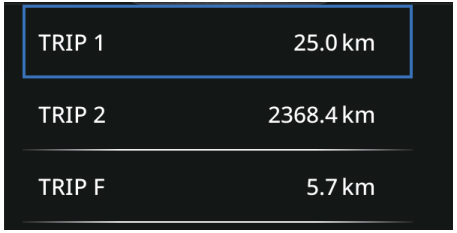
Information / Reset	車両情報をリセットします。(5-19 ページ参照)
Vehicle Function	走行を支援するシステムを設定します。(5-21 ページ参照)
Clock	時刻の調整／自動調整を設定します。(5-23 ページ参照)
Display	ディスプレイの明るさと背景の設定を変更します。(5-23 ページ参照)
Unit	ディスプレイに表示する単位を変更します。(5-24 ページ参照)
Grip Warmer Settings（装備している場合）	グリップウォーマーの温度を調節します。(5-24 ページ参照)
Shift Indicator	シフトインジケーターの設定を変更します。(5-24 ページ参照)
Connectivity Settings	スマートフォンの接続設定をします。(5-29 ページ参照)

Settings → Information / Reset



トリップメーター、メンテナンストリップメーター、車両情報の確認とリセットができます。また関連するその他の項目を工場出荷時の状態に一括リセットできます。

Trip Mileage Reset

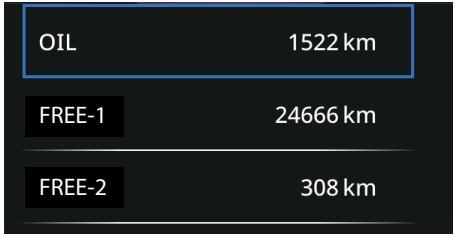


メインディスプレイのトリップメーターのリセットができます。ジョイスティックを操作して項目をハイライト表示し、“✔”を短押しします。“OK”を選択するとリセットされます。

要　点

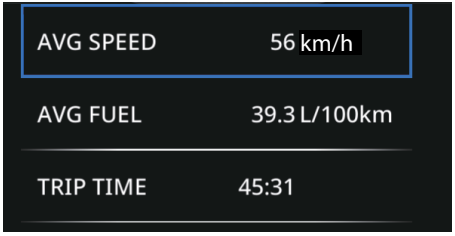
“TRIP F”は燃料が少ない時にしか選択できません。それ以外の時はグレー表示され、選択できません。

Maintenance Reset



エンジンオイル交換“OIL”と、お好みのメンテナンス項目“FREE-1”／“FREE-2”のメンテナンス後の走行距離を記録できます。いずれかの項目のメンテナンスが完了したら、ジョイスティックを操作して項目をハイライト表示し、“✔”を短押しします。“OK”を選択するとリセットされます。

Vehicle Info



インフォメーションディスプレイの項目をリセットできます。ジョイスティックを操作して項目をハイライト表示し、“✔”を短押しします。“OK”を選択するとリセットされます。

All Reset



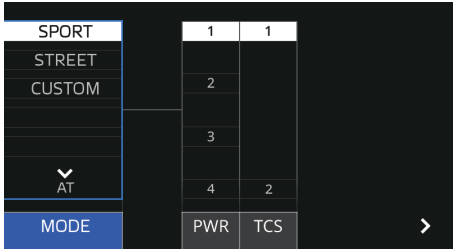
YRC 設定、ディスプレイの設定、グリップウォーマーの設定、トラクションコントロール、単位、Bluetooth 接続の設定、インフォメーションディスプレイの項目を初期状態に一括リセットできます。
“OK”を選択するとリセットされます。

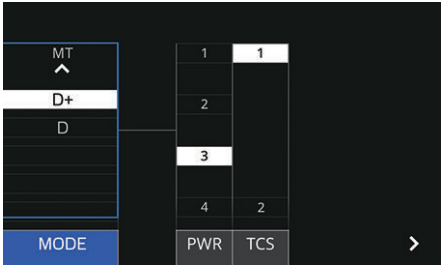
要　点

- リセット後、ディスプレイが再起動され、再起動までに数分かかる場合があります。
- “All Reset”を実行した場合は、一度スマートフォンからもペアリング履歴を削除した後に、あらためてペアリングしてください。
- 車両を売却または所有権を変更する前に、マルチファンクションメーターをリセットして、スマートフォンからのすべての個人データ（通話履歴や連絡先情報など）が削除されていることを必ず確認してください。
- マルチファンクションメーターをリセットした場合は、Bluetooth のペアリング履歴と Yamaha Motorcycle Connect アプリのペアリング履歴をスマートフォンから削除してください。削除しないとスマートフォンと再度ペアリングできなくなります。
- マルチファンクションメーターは走行中

にリセットすることはできません。

Settings → Vehicle Function → YRC Settings → YRC Modes





このメニューでは次の設定ができます。

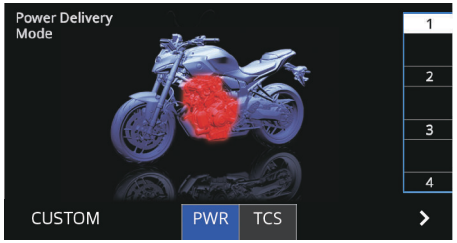
- “MT” モード時、YRC モードを“SPORT”、“STREET”、“CUSTOM”の中から選択します。
- “AT” モード時、YRC モードを“D+”“D”の中から選択します。
- “CUSTOM”を選択した場合は、“PWR”、“TCS”の設定を変更することができます。

ジョイスティックを上下に操作して、YRC モードを選択します。
ジョイスティックを左右に操作して設定項目を選択し、ジョイスティックを上下に操作して設定値を変更します。
ハイライト表示された項目で“✔”を短押しすると、ビジュアル表現に切り替わります。
ホームボタン“⌂”を短押しすると、元の表示に戻ります。
ホームボタン“⌂”を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

要　点

“CUSTOM”の名前や各項目の設定値は、Yamaha Motorcycle Connect アプリから変更することもできます。(5-22 ページ参照)

PWR（パワーデリバリーモード）



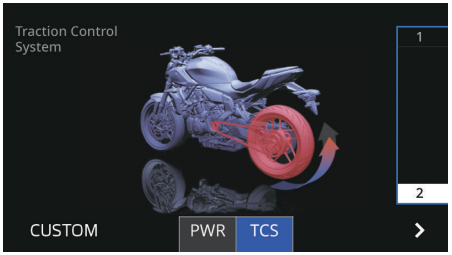
PWR は、３段階の設定レベルがあります。(3-1 ページ参照)
レベル１：スポーティなエンジン出力
レベル２：スムーズなエンジン出力
レベル３：レベル２よりわずかに出力を抑えた、スムーズな Y-AMT のシフトに適したモード

要　点

“AT”モード時、YRC モード“D”は出力がレベル４に設定されます。この設定は、レベル３と同等のエンジン特性を持ちますが、シフトタイミングが異なります。

5

TCS（トラクションコントロールシステム）

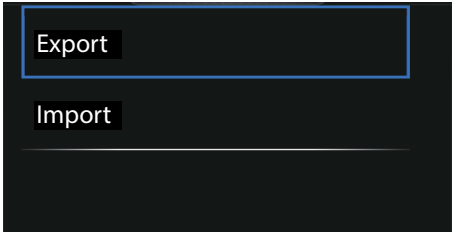


この車両は、可変トラクションコントロールシステムが装備されています。各設定レベルにおいて、車体を大きく傾けるほど、トラクションコントロール（システム介入）が強くなります。2段階の設定レベルがあり、レベル1ではシステム介入が最小限に抑えられ、レベル2では後輪のスリップを抑制するためにシステム介入が最大になります。(3-1 ページ参照)
レベル1：スポーティな走行に適しています。
レベル2：濡れた路面や滑りやすい路面での走行に適しています。

要　点

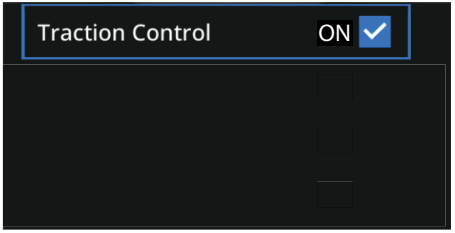
トラクションコントロールシステムは、“⚙ Settings” → “Vehicle Function” → “Stability Control ON/OFF”からのみ、完全にオフにすることができます。(5-22 ページ参照)

⚙ Settings → Vehicle Function → YRC Settings → Import / Export to App



Yamaha Motorcycle Connect アプリを使用して、変更した YRC モード設定をインポート／エクスポートすることができます。

⚙ Settings → Vehicle Function → Stability Control ON/OFF

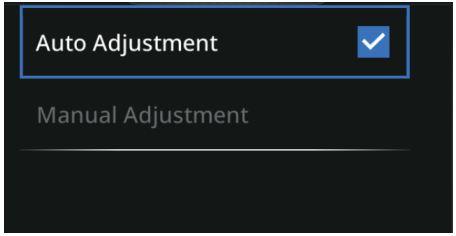


このメニューでは、“Traction Control”(TCS)のオン／オフを切り替えることができます。(3-1 ページ参照)
TCS をオフにすると、トラクションコントロールシステム表示灯“TCS”が点灯します。(5-8 ページ参照)

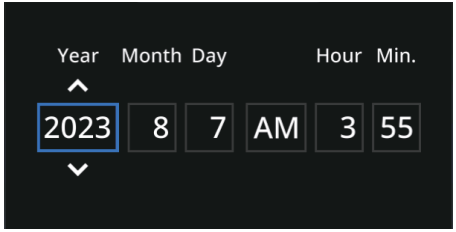
要　点

車両の電源をオンにすると、自動的に TCS はオンになります。

Settings → Clock

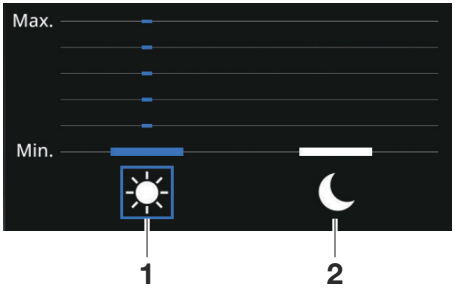


時計はスマートフォンと同期して自動調整できます。“Auto Adjustment”をオンするとチェックマークが入りますので、その状態で Yamaha Motorcycle Connect アプリに接続してください。(4-2 ページ参照)“Manual Adjustment”では時計を手動で調整できます。



時計を手動で調整するには、ジョイスティックを左右に操作して項目を選択し、ジョイスティックを上下に操作してハイライト表示された項目を調整します。“✔”を短押しすると時計が設定され、“OK”を選択して確定します。

Settings → Display → Brightness



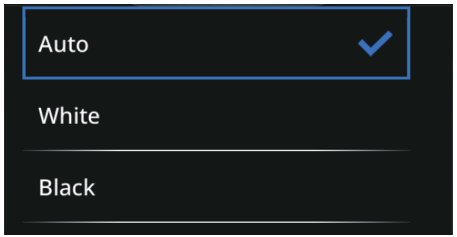
1. 昼
2. 夜

マルチファンクションメーターには、周囲の明るさを感知し、ディスプレイの明るさを自動的に昼／夜で切り替えるセンサーが装備されています。ディスプレイの明るさは昼／夜のそれぞれで調整することができます。ジョイスティックを左右に操作して昼または夜を選択し、ジョイスティックを上下に操作して明るさを 1-6 段階で調整します。“✔”を短押しすると設定され、前のメニューに戻ります。

要　点

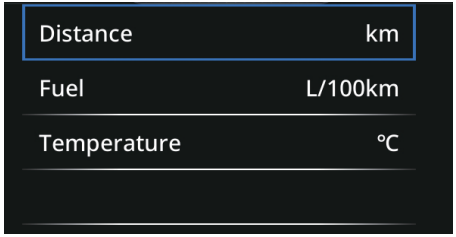
昼／夜の明るさの調整は、それぞれの適切な環境で調整してください。

Settings → Display → Background



マルチファンクションメーターには、周囲の明るさを感知し、ディスプレイの明るさを切り替えるセンサーが装備されています。
“White”（昼）または“Black”（夜）は、ディスプレイの明るさが選択した設定のままになります。
“Auto”を選択すると、周囲の明るさに応じて自動で切り替わります。

Settings → Unit

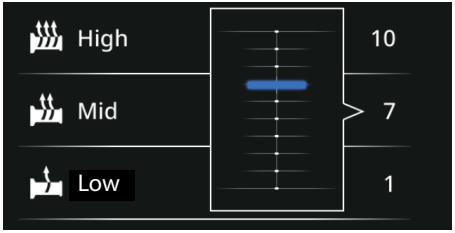


ディスプレイの表示単位は次のように変更できます。

- Distance（距離）：km または mile
- Fuel（燃費）：km/L、L/100km または MPG
- Temperature（温度）：℃ または℉

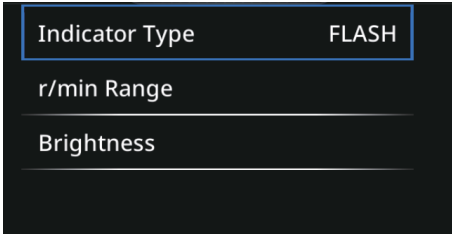
距離単位に“mile”を選択すると、燃費単位は自動的に“MPG”に変更されます。その場合、“Fuel”はグレー表示になり、選択できません。

Settings → Grip Warmer Settings（装備している場合）



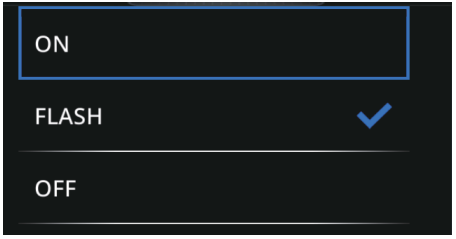
グリップウォーマーには 3 つの温度設定があり、それぞれの設定温度を調節できます。調整する温度設定を“✔”を短押して選択し、ジョイスティックを上下に操作して温度レベルを 1-10 段階で調整します。“✔”を短押しすると設定され、前のメニューに戻ります。

Settings → Shift Indicator



シフトタイミングインジケーターランプの設定を変更できます。

Indicator Type



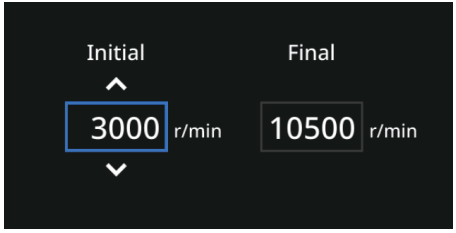
“ON”を選択すると、設定した Final エンジン回転数に達すると点灯します。FLASH を選択すると、設定した Initial エンジン回転数に達すると点滅を開始し、Final エンジン

回転数に達するとより早く点滅します。“OFF”を選択するとインジケーターランプは作動しません。“✔”を短押しして選択し、前のメニューに戻ります。

要　点

選択した設定に応じて、シフトタイミングインジケーターランプが点灯または点滅します。

r/min Range

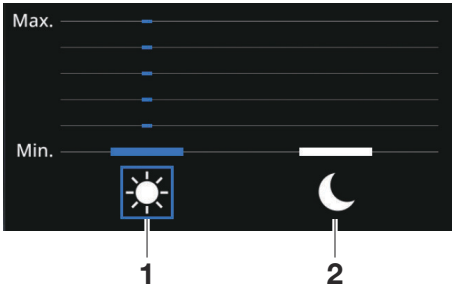


シフトタイミングインジケーターランプが点灯するエンジン回転数（r/min）を選択します。3000-10500 r/min の間で、250 r/min 単位で調整できます。“✔”を短押しすると設定され、前のメニューに戻ります。

要　点

- “Initial”は“Final”より低い回転数（r/min）で設定されます。
- ギヤがニュートラルまたは 6 速のとき、シフトタイミングインジケーターランプは点灯しません。

Brightness



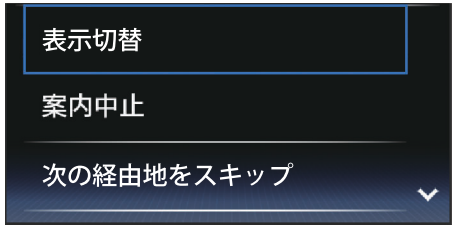
1. 昼
2. 夜

ジョイスティックを上下に操作して、シフトタイミングインジケーターランプの昼／夜それぞれの明るさを 1-6 の間で選択します。“✔”を短押しすると設定され、前のメニューに戻ります。

要　点

昼／夜の明るさの調整は、それぞれの適切な環境で調整してください。

App Applications → ナビゲーション



ナビゲーションシステムで操作できる項目が表示されます。

- 表示切替
- 案内中止
- 次の経由地をスキップ
- 自宅
- 職場
- お気に入り
- 近くのガソリンスタンド

要　点

- 上記以外のナビゲーションシステムの操作は、スマートフォンの Garmin StreetCross アプリを直接操作してください。
- “表示切替”と“案内中止”と“次の経由地をスキップ”は、ルート案内中でない場

5

合は使用できません。

ナビゲーションシステムの詳細については、5-16 ページを参照してください。

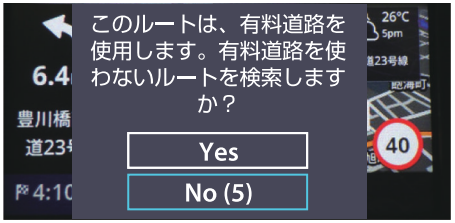


目的地を選択している時はナビゲーションディスプレイが開き、ルート案内が表示されます。



ルート案内中は、次のオプションが使用できます。

新規目的地に設定：現在のルート案内を中止して、新しい目的地を設定します。
次の経由地に追加：現在案内中の目的地の手前に経由地を追加します。
目的地に追加：現在案内中の目的地の後に、新しい目的地を追加します。

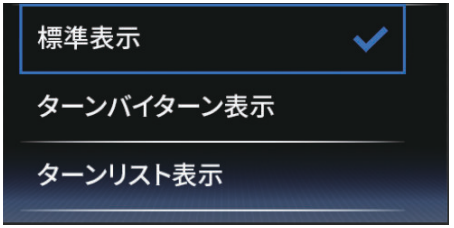


ルート上に有料道路がある場合は、有料道路を使用しないルートを選択するか表示されます。“Yes”を選択すると有料道路を使用しないルートを探索します。“No”を選択すると有料道路を使用するルートで案内を開始します。

要　点

10 秒間何も選択しないと、自動的に有料道路を使用するルートで案内を開始します。

表示切替



ナビゲーションの表示を切り替えます。（標準表示、ターンリスト表示、ターンバイターン表示）設定後は、ナビゲーションディスプレイが選択された形式で表示されます。

案内中止
ルート案内を中止して、ナビゲーションのホーム画面を開きます。

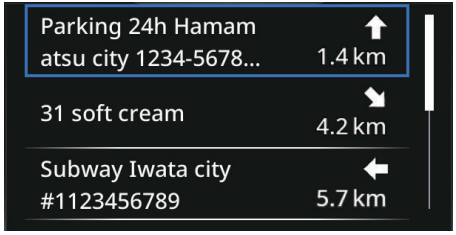
次の経由地をスキップ
次の目的地をスキップして、ナビゲーションのホーム画面を開きます。

自宅
自宅に戻るルート案内が設定されます。（自宅は Garmin StreetCross アプリで事前登録が必要です。）

職場

職場へ行くルート案内が設定されます。（職場は Garmin StreetCross アプリで事前登録が必要です。）

お気に入り



お気に入りに登録された目的地と現在地からの距離が表示されます。（お気に入りは Garmin StreetCross アプリで事前登録が必要です。）

要　点

ルート案内中は現在の進行方向を上向き矢印として、保存された目的地の方角を矢印の向きで表示します。

近くのガソリンスタンド

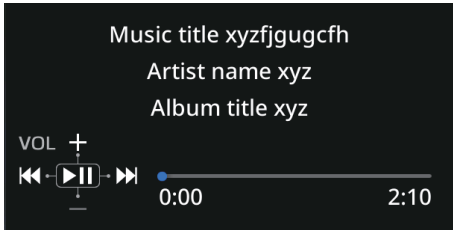


近くのガソリンスタンドと現在地からの距離が表示されます。

要　点

ルート案内中は現在の進行方向を上向き矢印として、ガソリンスタンドの方向を矢印で表示します。

Applications → 音楽



接続しているスマートフォンの音楽プレーヤーを表示します。

ジョイスティックを上下に操作して、音量を調整します。

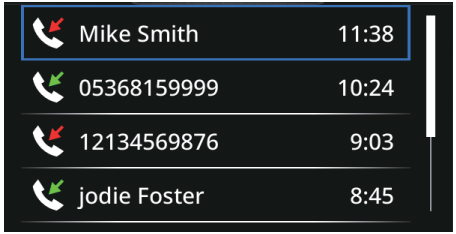
ジョイスティックを左右に操作すると、前の曲／次の曲にスキップします。

“✔”を短押しすると、曲を再生／一時停止をします。

要　点

- 楽曲情報は、スマートフォンの音楽プレーヤーアプリから取り込まれます。
- スマートフォンや音楽プレーヤーのアプリケーションによっては、音楽プレーヤーが自動的に再生したり、楽曲情報が表示されなかったり、前の曲／次の曲などの機能が使用できない場合があります。

Applications → 電話



接続されたスマートフォンからの直近の着信履歴（CCU に接続された以降）が表示されます。着信履歴を表示すると、不在着信表示“ ”が消灯します。

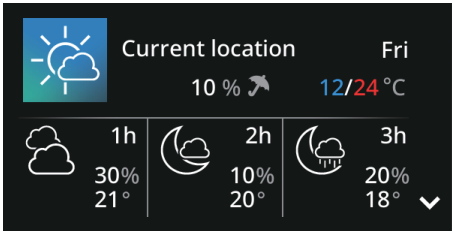
：不在着信（赤）

：着信（緑）

要　点

- 同じ連絡先からの発着信は、連絡先の横に回数が表示されます。
- 着信履歴は最大 30 件まで保存されます。上限に達すると、古い履歴から削除されます。

Applications → 天気

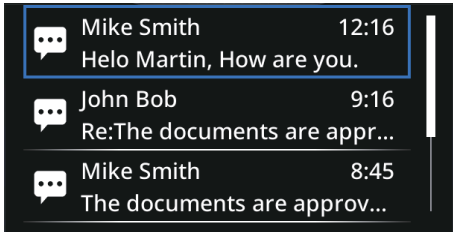


現在地の天気情報が表示されます。ジョイスティックを上下に操作すると、天気情報の予報間隔が変更できます。（時間単位/日単位）

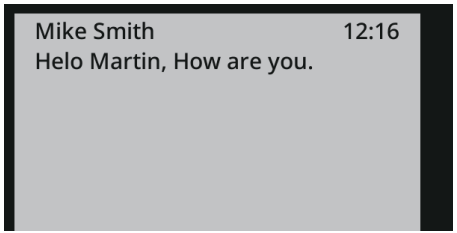
要　点

この天気情報はナビゲーションのホーム画面の天気情報と異なる場合があります。

Applications → 通知



接続されたスマートフォンからの通知のリスト（CCU に接続された以降）が表示されます。選択したメッセージを開いて内容を確認できます。通知表示“ ”は車両の電源をオフにすると消灯します。



要　点

- スマートフォンまたはアプリによっては、

通知機能が使用できない場合があります。
- 通知は最大 30 件まで保存されます。上限に達すると、古い通知から削除されます。
- 長いメッセージだと、すべてを表示できない場合があります。
- 走行中はメッセージを開いたり読んだりすることはできません。
- 通知に表示される時刻は、スマートフォンに表示されている時刻と異なる場合があります。

Applications → Information Transfer

Yamaha Motorcycle Connect アプリを使用して画像を転送し、ディスプレイに表示することができます。

Applications → 接続設定 → コネクション → Bluetooth



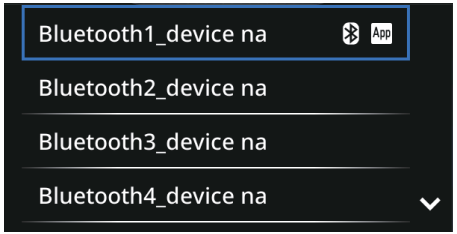
Bluetooth

CCU の Bluetooth 接続のオン／オフを切り替えることができます。チェックマークが入っていると、Bluetooth 接続はオンの状態です。

デバイス検出モード

スマートフォンとのペアリングを行うために、CCU をデバイス検出モードにします。Bluetooth のペアリング方法については 4-3 ページを参照してください。

登録済みデバイス



ペアリング登録されているスマートフォンが表示されます。デバイス名の横にある“App”は、Yamaha Motorcycle Connect アプリが現在 CCU に接続されていることを示します。デバイス名の横にある“”は、Garmin StreetCross アプリが現在 CCU に接続されていることを示します。

要　点

ペアリング登録できるスマートフォンは最大８台です。

スマートフォン名を選択すると次の操作ができます。



ペアリング削除 : 選択されたスマートフォンを CCU から削除します。
接続 : 選択されたスマートフォンを接続します。
切断 : 選択されたスマートフォンの接続を切断します。

要　点

Bluetooth 自動接続をオンに設定していると、切断後もすぐに自動接続される場合があります。

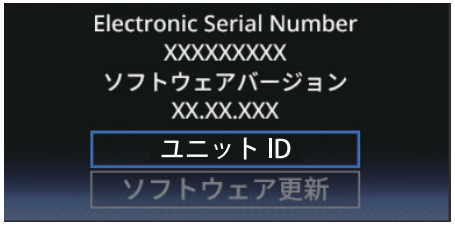
Bluetooth 自動接続

Bluetooth 自動接続のオン／オフを切り替えます。チェックマークが入っていると、自動接続はオンになっています。自動接続がオンになっている場合は、CCU は最後に接続されたスマートフォンと自動的に接続されます。最後に接続されたスマートフォンが無い場合は、登録済みデバイスリストの中の 1 台と接続されます。

要　点

Bluetooth 自動接続がオフの場合は、ペアリング登録されているスマートフォンと手動で接続ができます。

Applications → 接続設定 → システム情報



現在のシステムソフトウェアのバージョンを表示します。

ユニット ID



CCU のユニット ID が含まれた QR コードを表示します。“✔”を短押しすると、ひとつ前のメニューに戻ります。

要　点

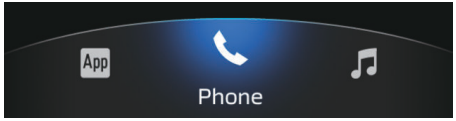
CCU のユニット ID は販売店の修理業務のみに必要になります。

Applications → 接続設定 → 法的情報



ソフトウェアのサードパーティライセンスは、こちらで確認できます。

Phone（着信時と通話中のみ）

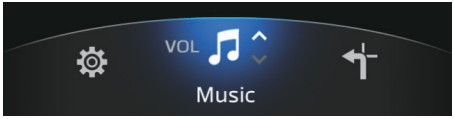


着信／通話画面が開き、相手の名前と通話時間が表示されます。
ジョイスティックを上下に操作して通話音量を調整します。
“✔”を短押しすると、通話は終了します。

要　点

スマートフォンの機種によっては、車両のスイッチ操作による音量調節や通話終了ができない場合があります。その場合は、音量調節と通話終了表示がグレー表示になりますので、スマートフォンを直接操作してください。

Music



ジョイスティックを上下に操作して音量を調整します。
“✔”を短押しすると、その他の機能が表示されます。



接続されたスマートフォンの音楽プレーヤーアプリと連携したポップアップ音楽プレーヤーが表示されます。

ジョイスティックを上下に操作して、音量を調整します。
ジョイスティックを左右に操作すると、前の曲／次の曲にスキップします。
“✔”を短押しすると、曲を再生／一時停止をします。

要　点

- 楽曲情報は、スマートフォンの音楽プレーヤーアプリから取り込まれます。
- スマートフォンや音楽プレーヤーのアプリケーションによっては、音楽プレーヤーが自動的に再生したり、前の曲／次の曲などの機能が使用できない場合があります。
- Theme4 の場合、この項目はポップアップメニューにありません。インフォメーションディスプレイに表示され、機能は同じです。

Turn-by-Turn / Turn-by-Turn OFF



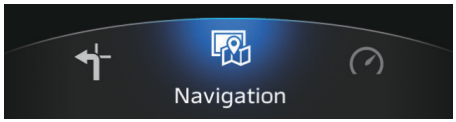
メインディスプレイ下部にあるターンバイターンのルート案内のオン／オフができま

す。



このメニューアイコンは、メインディスプレイの場合のみ表示されます。

Navigation



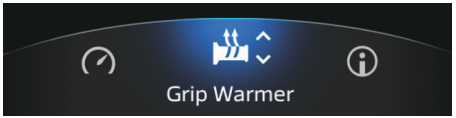
ナビゲーションディスプレイが開きます。このメニューアイコンは、メインディスプレイの場合のみ表示されます。

Meter Display



メインディスプレイが開きます。このメニューアイコンは、ナビゲーションディスプレイの場合のみ表示されます。

Grip Warmer（装備している場合）



グリップウォーマーは、ジョイスティックを上下に操作して、3 つの温度設定またはオフのいずれかから選択し、温度調節ができます。温度設定は“Settings”→“Grip Warmer Settings”から調整することができます。(5-24 ページ参照)
この項目をハイライト表示した状態で“✔”を長押しすると、“Settings”→“Grip Warmer Settings”を直接開くことができます。

要　点

Theme4 の場合、この項目はポップアップメニューにありません。インフォメーションディスプレイに表示され、機能は同じです。

JAU93090

ABS

この車の ABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキとリヤブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABS は ECU（エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

⚠警　告

- **ABS は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。 速度はひかえめにし、車間距離を十分にとってください。**

要　点

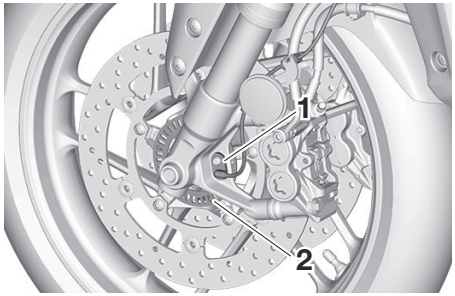
- ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。
- この ABS には、ABS が作動している状態（ブレーキレバーまたはブレーキペダル

に振動を感じる）を体感できるテストモードがあります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

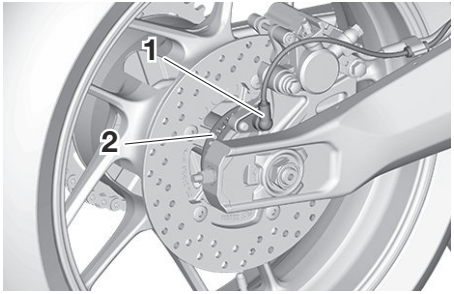
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサー
2. フロントホイールセンサーローター



1. リヤホイールセンサー
2. リヤホイールセンサーローター

JAU13078

フューエルタンクキャップ

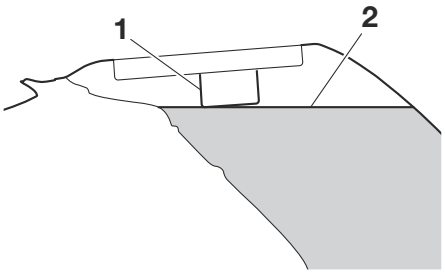
JWA12172

⚠ 警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

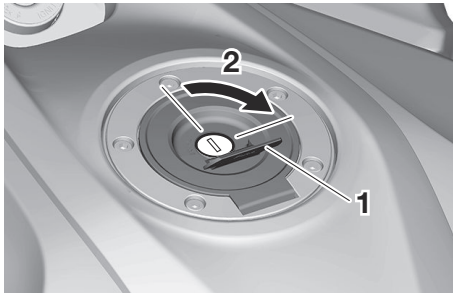
- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実**

に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーを差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28313

指定燃料

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 13 L

JCA12512

注 意

- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

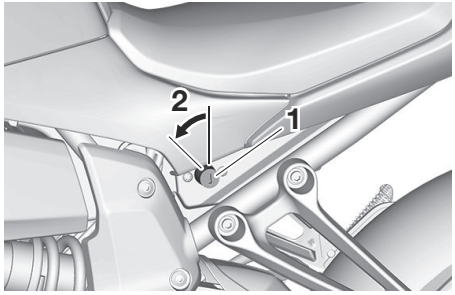
JAUA3772

シート

タンデムシート

タンデムシートの取り外しかた

1. キーをシートロックに差し込み、反時計方向に回します。

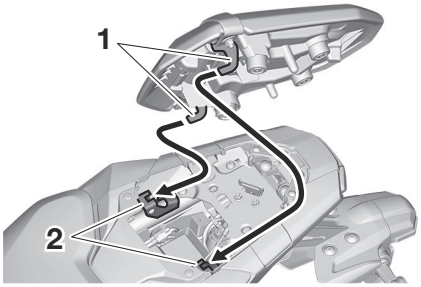


1. シートロック
2. 解除

2. キーの位置はそのままで、タンデムシートの後部を少し持ち上げ、後方向にずらしながらタンデムシートを取り外します。

タンデムシートの取り付けかた

1. タンデムシートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。



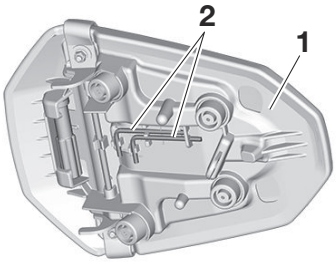
1. 突起
2. シートホルダー

2. タンデムシートの後部を押し、タンデムシートをロックします。
3. キーを抜き取ります。

ライダーシート

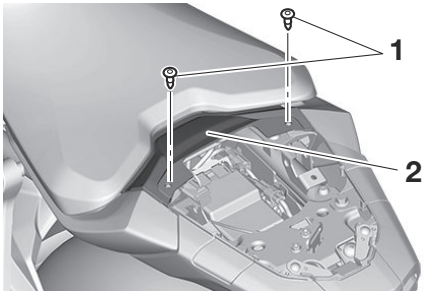
ライダーシートの取り外しかた

1. タンデムシートを取り外し、シートの裏側にある六角レンチを取り外します。



1. タンデムシート
2. 六角レンチ

2. クイックファスナーを外し、カバーを取り外します。

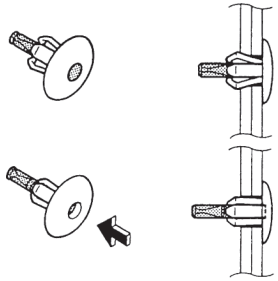


1. クイックファスナー
2. カバー

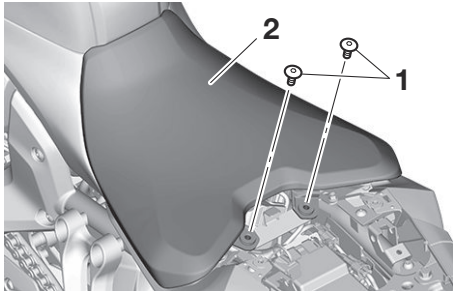
要　点

クイックファスナーはセンターピンを押し

込んでから取り外します。



3. 六角レンチを使用して、ライダーシートのボルトを取り外します。



1. ボルト
2. ライダーシート

4. ライダーシートの後ろ側を持ち上げて外します。

ライダーシートの取り付けかた

1. 図のように、ライダーシートの溝をフレームのクロスメンバーの突起に合わせ、シートを元の位置に戻します。

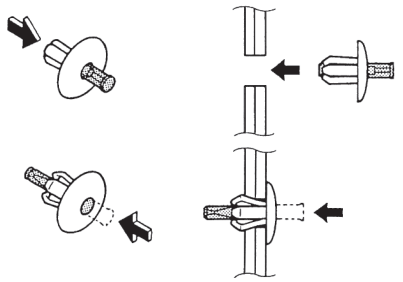


1. 孔
2. 突起

2. 六角レンチを使用してボルトを締め付けます。
3. カバーを取り付け、クイックファスナーを取り付けます。

要　点

クイックファスナーはセンターピンを押し出した状態で取り付け、センターピンとファスナーヘッドを同じ位置になるまで押し込みます。



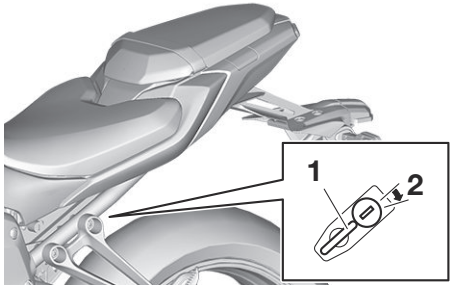
4. 六角レンチをタンデムシートの裏側に戻します。
5. タンデムシートを取り付けます。

要　点

走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。

JAU14283

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

⚠警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAUA2880

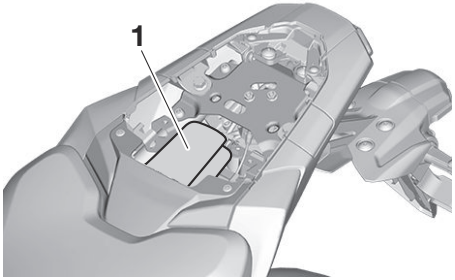
書類入れ

タンデムシートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。（5-37 ページ参照）車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは、小物入れに保管してください。

JCA28461

注 意

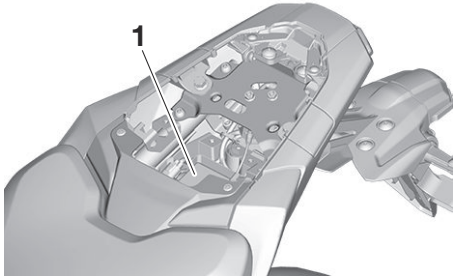
電子部品（IC チップ）を内蔵した電子車検証は、IC タグを損傷しないように大切に保管してください。



1. 書類入れ

JAUA1850

小物入れ



1. 小物入れ

タンデムシートの下に小物入れがあります。（5-35 ページ参照）
小物入れに書類などを収納する場合は、図のようにビニール袋を固定してください。

JCA12972

注 意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。

- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。**

- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**
- **小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物は入れないでください。**

要　点

車から離れるときは、必ずタンデムシートをロックしてください。

JAU91870

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスターと伸側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA12441

⚠警 告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

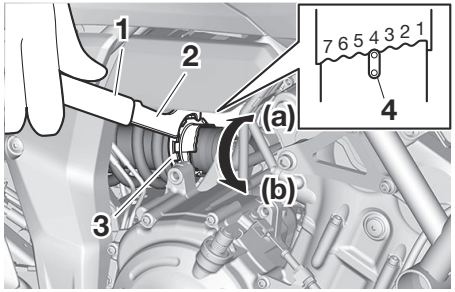
JCA11911

注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

プリロードアジャスターを(a)方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b)方向に回すと小さくなります。
アジャスターの切り欠きを、リヤクッションのインジケーターに合わせます。



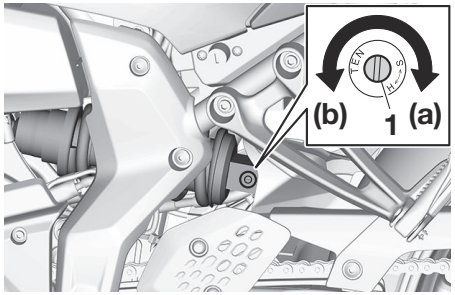
1. エクステンション
2. 調整レンチ
3. スプリングプリロードアジャスター
4. インジケーター

要　点

追加サービスツール内の調整レンチとエクステンションを使って調整を行います。

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
　1段
標準：
　4段
最大（ハード）：
　7段

伸側減衰力
減衰力アジャスターを(a)方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b)方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを(a)方向に止まるまで回し、(b)方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b)方向へ 2 1/2 回転
標準：
(b)方向へ 1/2 回転
最大（ハード）：
(b)方向へ 0 回転

要　点
アジャスターを(b)方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

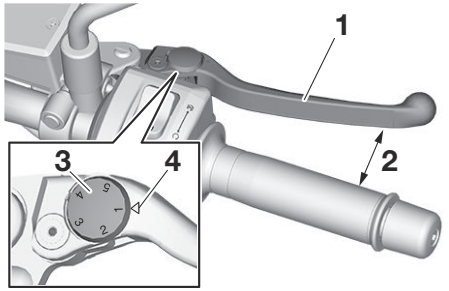
JWA10222

⚠ 警 告
リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。
- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

JAU45543

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. アジャスター
4. 合マーク

要　点
アジャスターの数字と合マークを、必ず合わせてください。

JAU70642

DC コネクター

この車には、オプションの電装アクセサリーを取り付けるために、DC コネクターが搭載されています。
コネクタの位置や容量および取り付け可能なアクセサリーについては、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU92960

ETC コネクター

この車には ETC コネクターが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠ 警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAUA5280

イグニッションサーキットカットオフシステム

このシステムは、サイドスタンドが上がっていないときや、ブレーキをかけていないときのエンジン始動を防止します。また、サイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

要　点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、5-2 ページ、5-3 ページを参照してください。

JWA11541

⚠警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

JAUA5291

エンジンが停止した状態で：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンストップスイッチをオンにします。
3. メインスイッチをオンにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. ブレーキレバーを握ります。
6. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい / **いいえ** → ニュートラルスイッチ、ブレーキランプスイッチ、Y-AMTシステムの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
7. サイドスタンドを上げます。
8. リヤブレーキをかけます。
9. ギヤを入れます。
10. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい / **いいえ** → サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
11. サイドスタンドを上げます。
12. ブレーキを放します。
13. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

いいえ / **はい** → ブレーキランプスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。**走行可能です。**

JAU1559B

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要　点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、8-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

ならし運転

JAU31471

JAU27665

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 6300 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

エンジン始動

JAUA5010

JWA11562

⚠警 告

- **エンジンを始動するときには、5-41 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. 車両の電源をオンにし、スターター／エンジンストップスイッチが“⏀”にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要　点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチの“⏀”側を押して、エンジンを始動します。

要　点

- スターター／エンジンストップスイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスターター／エンジンストップスイッチを押してください。
- 意図しない加速を避けるため、スロットルグリップを開けたままエンジンを始動すると、Y-AMT は車両が加速するのを防ぎます。スロットルを閉じ、エンジン回転数が下がると加速できます。

JCA16661

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

JAUM3632

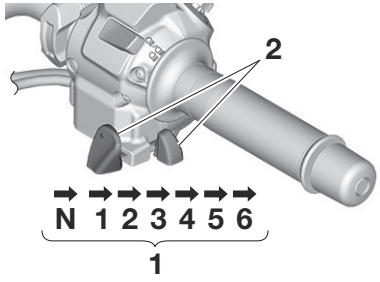
要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- 車両の電源がオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。 この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合は車両の電源を一旦オフにして、再度オンにするリセット操作をしてください。 この機構が働いたとき、エンジン警告灯が点灯しますが、故障ではありません。また、リセット操作を行うと、エンジン警告灯が消灯します。
- 車両が停止した状態で 20 分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAUA2803

ギヤチェンジのしかた



1. ギヤの位置
2. シフトレバー

ヤマハオートメイティドマニュアルトランスミッション (Y-AMT) は、“AT” ／ “MT” どちらのモードでもシフトレバーによる変速をすることができます。(5-5 ページ参照)

ギヤポジションの順番は図の通りです。

要　点

車両の電源をオンにした状態で、Y-AMT のギヤチェンジをしてください。

- ギヤをニュートラルにするには、ニュートラルランプが点灯するまで、繰り返しシフトレバーを “-” 方向に押します。
- ニュートラルから 1 速にギヤチェンジするときは、エンジン回転数を 1800 r/min よりも低くし、サイドスタンドは上げてください。
- エンジン回転数が低すぎると、シフトアップすることはできません。
- エンジン回転数が高すぎると、シフトダウンすることはできません。
- 停車すると、トランスミッションは自動的に 1 速にシフトダウンし、クラッチを接続します。
- ギヤを入れた状態で車両の電源をオンにした場合、ブレーキレバーを握るまたはブレーキペダルを踏むまでギヤを変えることはできません。

JCA28590

注 意

ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとトランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。

JAU64130

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として

行ってください。

走行速度
1 速: 0 km/h–70 km/h
2 速: 20 km/h–95 km/h
3 速: 25 km/h–120 km/h
4 速: 30 km/h–155 km/h
5 速: 35 km/h–180 km/h
6 速: 40 km/h 以上

シフトダウン速度
6 速 → 5 速: 145 km/h 以下
5 速 → 4 速: 120 km/h 以下
4 速 → 3 速: 95 km/h 以下
3 速 → 2 速: 75 km/h 以下
2 速 → 1 速: 55 km/h 以下

JWA20720

⚠ 警 告

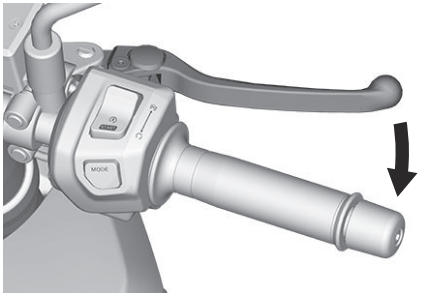
法定速度を守って走行してください。

JAU33176

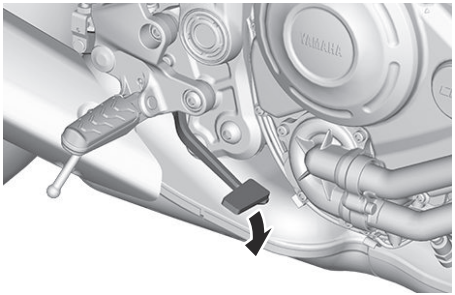
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

＜フロントブレーキ＞



＜リヤブレーキ＞



JWA11573

⚠ 警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**

JCA26500

注 意

- **上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。**

● 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。

JAUA5020

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

要　点

Y-AMT は、1 速ギヤでエンジンが停止すると 1 秒後に自動的にクラッチを接続するため、車両を移動することができなくなります。車両の電源をオフにした状態で車両をニュートラルポジションに保つには、シフトダウンしてニュートラルにしてからメインスイッチを OFF にします。

JWA11582

⚠ 警 告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

点検整備の実施

JAUA3580

日常点検

6-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と 2 年点検の 2 種類があります。

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA22780

⚠ 警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **エンジンが停止していても、車両の電源がオンになっているだけで、Y-AMT の部品の一部が意図せずに動作する可能性があります。その場合、体の一部や衣服を挟み込み、重傷を負うおそれがありますので注意してください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠ 警 告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

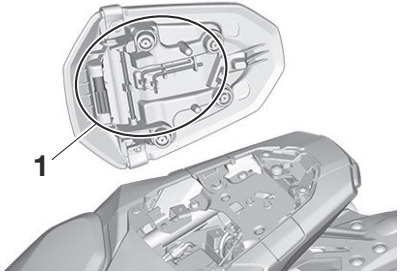
要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検

整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU85240

サービスツール



1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。また、車両購入時に別に手渡されるサービスツールがあります。

JAU30378

エンジンオイル

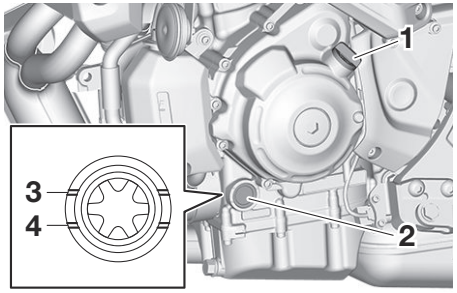
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを 2～3 分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

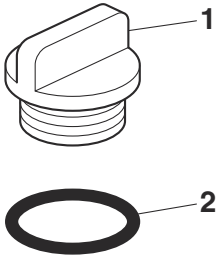


1. オイル注入口
2. エンジンオイル点検窓
3. フルレベル
4. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、9-3 ページ参照）

要　点

O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. O リング

JAU47505

エンジンオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
10000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
オイル交換時:
2.30 L
オイルフィルター取り外し時:
2.60 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
30000 km 走行ごと

JWA11861

⚠警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。 ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30691
エンジンのかかり具合、異音の点検
エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

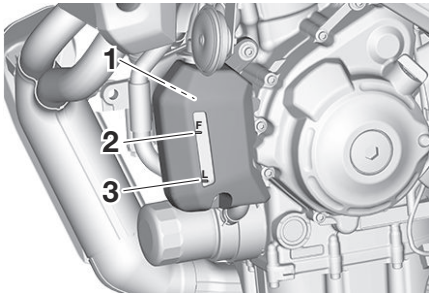
JAU91020
低速、加速の状態の点検
低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。
- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071
冷却水

JAU30723
冷却水量の点検
要　点
冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



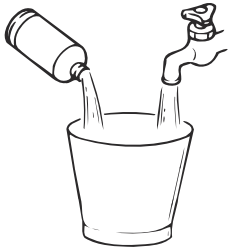
1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。



JWA11882

⚠ 警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

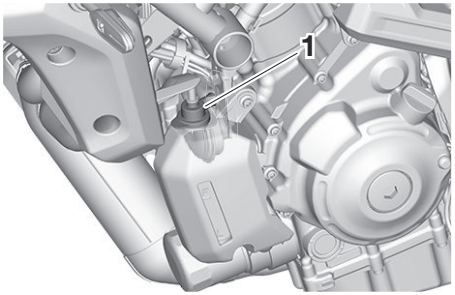
注 意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30812

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、ロアレベルより水面が下がっているときは、リカバリータンクキャップを開けて冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

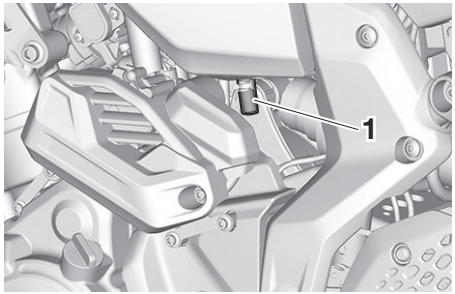
JAU62420

エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは、定期的な交換が必要です。
エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。
ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホースの清掃

1. ブリーザードレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。



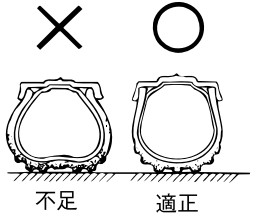
1. ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホース

2. 汚れや水があった場合は、ブリーザードレンホースを取り外して清掃し、元に戻します。

JAU65360

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
2 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)

要　点

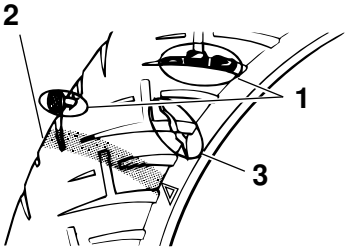
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28776

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8 mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠ 警 告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり**

減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ：
前輪：
120/70ZR17 M/C (58W)
後輪：
180/55ZR17 M/C (73W)
指定タイヤ：
前輪：
DUNLOP/SPORTMAX Q5AF
後輪：
DUNLOP/SPORTMAX Q5A

JAU31122

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

⚠ 警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

⚠ 警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU36505

ブレーキランプスイッチの点検

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプは ABS の構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

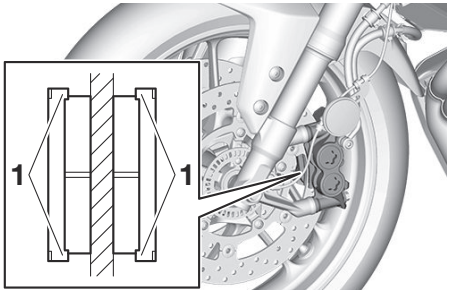
JAU49291

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

＜フロントブレーキ＞

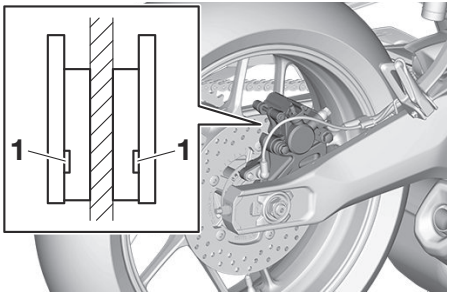
ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケーター

＜リヤブレーキ＞

ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

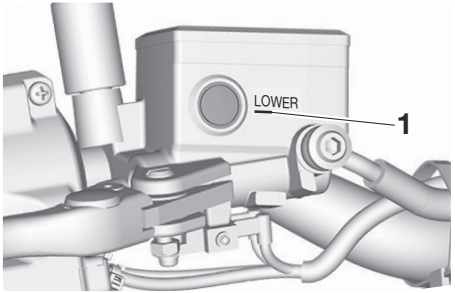


1. インジケーター溝

JAU44233

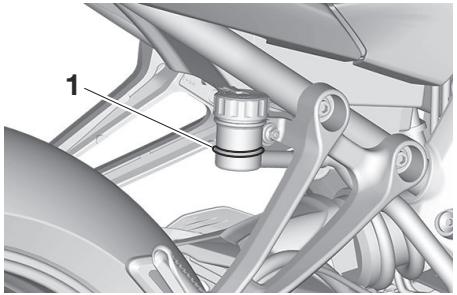
ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞



1. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロ

アレベル以上にあるかを点検します。
液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

⚠警 告

- **ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために 2 年ごとに交換してください。**

JAU22762

ドライブチェーン

JAUA3741

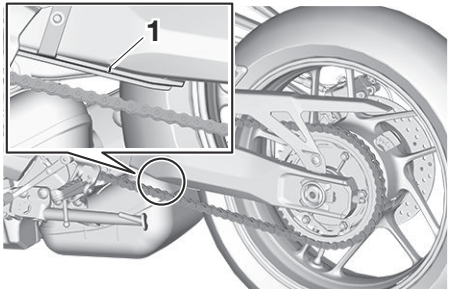
ドライブチェーンの点検

1. サイドスタンドに立てます。

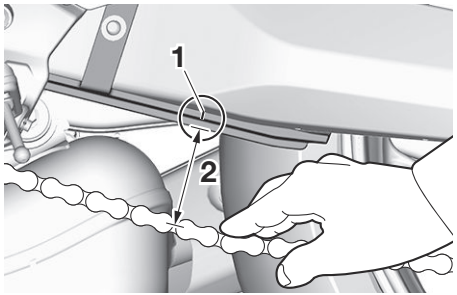
要 点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

2. ギヤをニュートラルにします。
3. ドライブチェーンガードの突起部の位置でドライブチェーンを手で押し下げます。
   このとき、セット長 A（ドライブチェーンガードの突起部の位置からの距離）が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。



1. 突起



1. 突起
2. セット長 A

セット長 A：
51.0–56.0 mm

4. ドライブチェーンのたわみ量（セット長 A）が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

JCA17791

注 意

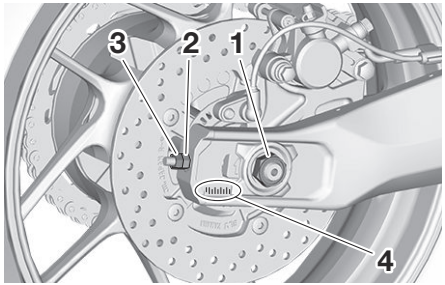
ドライブチェーンのたわみ量が 58.0 mm 以上の場合、走行しないでください。ドライブチェーンがリヤアームなどの部品に接触して損傷を与えることがあります。

8

JAU57971

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロッキングナットをゆるめます。



1. セルフロッキングナット
2. アジャスター
3. ロックナット
4. 刻み目盛り

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要　点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
セルフロッキングナット：
105 N·m (10.5 kgf·m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
16 N·m (1.6 kgf·m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23027

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

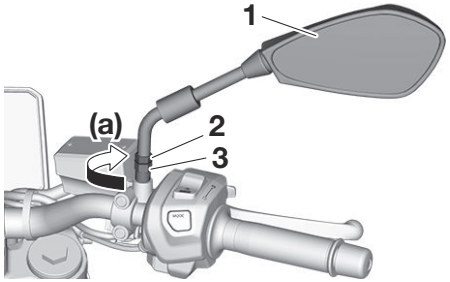
- **スチーム洗浄はしないでください。**
- **シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。**

JAU43302

バックミラー

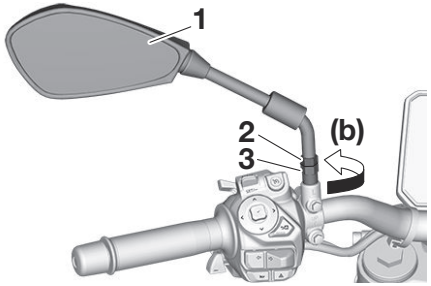
バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラー取り付けアダプターのボルト部は左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けアダプターを時計回り（a）方向に回します。



1. 右バックミラー
2. 右バックミラー取り付けナット
3. 右バックミラー取り付けアダプター

- 左バックミラー取り付けアダプターのボルト部は右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けアダプターを反時計回り（b）方向に回します。



1. 左バックミラー
2. 左バックミラー取り付けナット
3. 左バックミラー取り付けアダプター

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

要　点

- 右バックミラー取り付けナットは、右ネジです。
- 左バックミラー取り付けナットは、左ネジです。

JAU28621

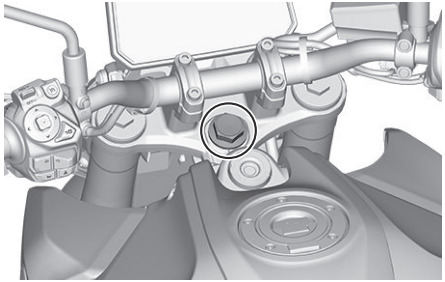
車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。 爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA12142

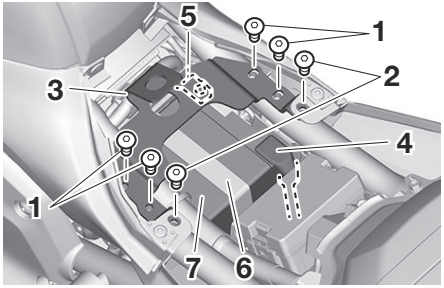
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12 Vです。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

JAUA5390

バッテリーの取り外し

1. シートを取り外します。(5-35 ページ参照)
2. メインスイッチをオフにします。



1. ボルト A
2. ボルト B
3. シートブラケット
4. +リード線
5. −リード線
6. バッテリーバンド
7. バッテリー

3. ボルト A を取り外します。
4. ボルト B を取り外し、シートブラケットを取り外します。
5. −（マイナス）側リード線を外します。

JCA16304

注 意

バッテリーを取り外すときは、必ずメインスイッチをオフにしてから、マイナスリード、プラスリードの接続の順で外してください。

6. +（プラス）側リード線を外します。
7. バッテリーバンドを取り外します。
8. バッテリーを取り外します。

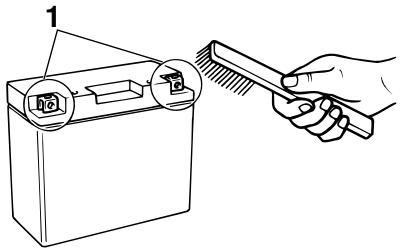
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

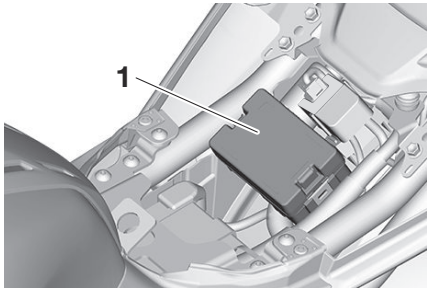


1. ターミナル

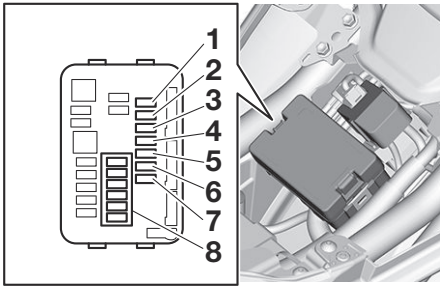
JAUA1844

ヒューズ交換

ヒューズボックスは、ライダーシートの下にあります。(5-35 ページ参照)



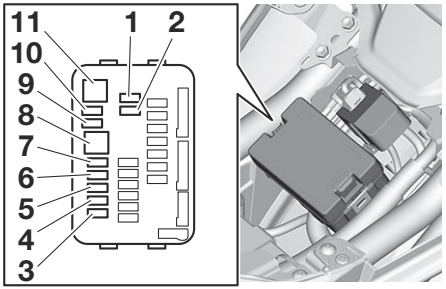
1. ヒューズボックス



1. イグニッションヒューズ
2. ヘッドライトヒューズ
3. ABS コントロールユニットヒューズ
4. イグニッションヒューズ 2

8

5. シグナルヒューズ
6. DC ターミナルヒューズ 1
7. アクセサリーヒューズ
8. スペアヒューズ



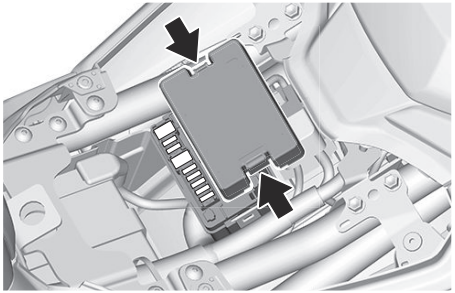
1. ブレーキランプヒューズ
2. クルーズコントロールヒューズ
3. ラジエターファンモーターヒューズ
4. バックアップヒューズ
5. バックアップヒューズ 2 （ECU／イモビライザーシステム）
6. 電子制御スロットルバルブヒューズ
7. フューエルインジェクションヒューズ
8. メインヒューズ
9. ABS モーターヒューズ
10. ABS ソレノイドヒューズ
11. Y-AMT モーターコントロールヒューズ

ヒューズが切れた場合は、以下のように交換します。

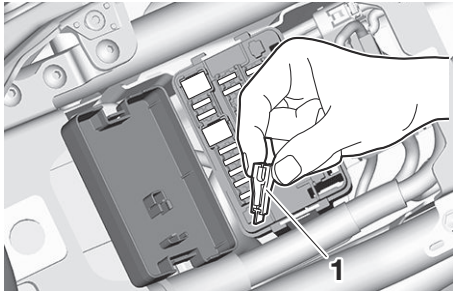
要　点

ヒューズを取り外すときは、ヒューズプラーをご使用ください。

1. 車両の電源をオフにします。
2. 図のように、ヒューズボックスカバーの 2 点を内側に押しながら上方向に引き、カバーを取り外します。



3. ヒューズプラーで切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



1. ヒューズプラー

規定ヒューズ：
DC ターミナル 1:
5.0 A
メイン:
50.0 A
アクセサリー:
2.0 A
ヘッドライト:
7.5 A
ブレーキランプ:
2.0 A
シグナル:
7.5 A
イグニッション:
10.0 A
イグニッション 2:
7.5 A
ラジエターファンモーター:
15.0 A
ABS モーター:
30.0 A
フューエルインジェクション:
10.0 A
ABS ソレノイド:
15.0 A
ABS コントロールユニット:
7.5 A
Y-AMT モーターコントロール:
50.0 A
クルーズコントロール:
2.0 A
バックアップ:
7.5 A
バックアップ 2:
15.0 A
電子制御スロットルバルブ:
7.5 A

4. 車両の電源をオンにし、装置が正しく作動することを点検します。
5. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。
6. ヒューズプラーを戻し、ヒューズボックスカバーを取り付けます。

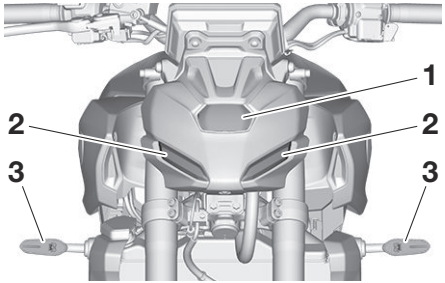
JCA12862

注 意

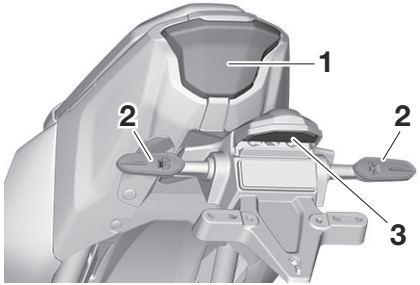
- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

灯火装置および方向指示灯の点検

JAU29447



1. ヘッドライト
2. マーカーランプ
3. 方向指示灯（前）



1. ブレーキ/テールランプ
2. 方向指示灯（後）
3. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（8-14ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（10-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

運行において異常が認められた箇所の点検

JAU29571

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAUA6290

こんなときは

ヤマハ車は工場から出荷前に入念に点検されていますが、使用中にトラブルが発生することがあります。燃料、圧縮、イグニッションシステムのトラブルは始動不良やパワーの低下を引き起こす原因となります。
点検して、修理の必要がある場合にはヤマハ販売店に車両を持ち込んでください。専用の工具を使って経験、知識の豊富な整備士が適切に修理を行います。
部品を交換するときは、必ずヤマハ純正部品を使用してください。類似部品は、ヤマハ純正部品と似ていますが、しばしば性能で劣ることがあり、長持ちしないため、結局、修理費用が高くつくことがあります。

JAUA2841

手動でギヤチェンジする

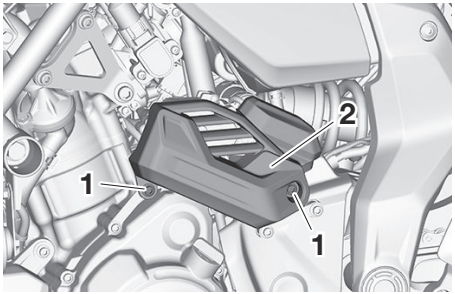
ヤマハオートメイティドマニュアルトランスミッション (Y-AMT) システムに異常が発生した場合や、バッテリーが上がった場合に、車両の電源がオフの状態であれば、以下の方法でトランスミッションを手動でニュートラルポジションにすることができます。

JWA22731

⚠ 警 告

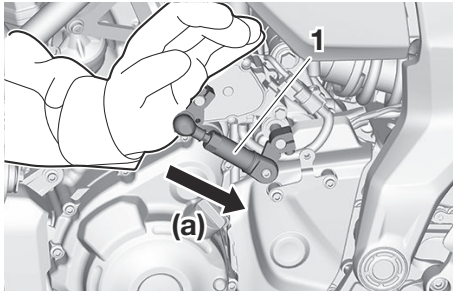
- **エンジンが熱いときはこの手順を行わないでください。重度のヤケドを負うおそれがあります。**
- **シフトロッドにカバーが取り付けられていない場合は、車両の電源をオンにしないでください。意図しないシフト作動が発生し、体の一部や衣服を挟み込み、重傷を負うおそれがあります。**

1. ボルトを外して、カバーを取り外します。



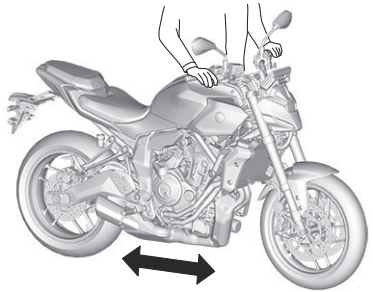
1. ボルト
2. カバー

2. 図のようにシフトロッドの下に手を置き、しっかりとカチッと音がするまで (a) 方向に強く押します。



1. シフトロッド

3. ハンドルバーを握り、ギヤチェンジが行われたことを示すカチッという音がするまで、車両を少し前後に動かします。



4. さらにシフトダウンが必要な場合は、ギヤがニュートラルになり車両を移動させることができるまで、手順 2～3 を繰り返します。

5. カバーを取り付けます。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

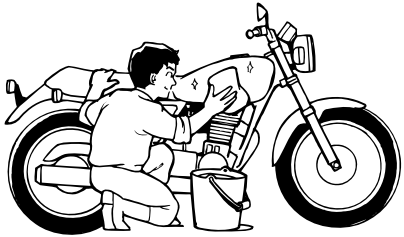
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27796

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

⚠ 警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12215

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**

- **ウインドスクリーン、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。**
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU28001

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
（工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。）
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

⚠警　告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注　意

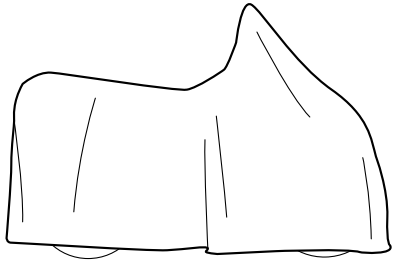
- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

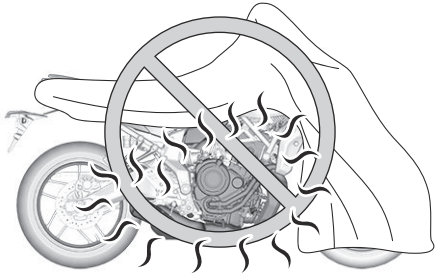
JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28116

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。
ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機の MotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。
高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。
高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。
低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイ

ル。
大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ
走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。
価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。
ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス
経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。
ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。
コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索

寸法:
- 全長:
  - 2065 mm
- 全幅:
  - 780 mm
- 全高:
  - 1110 mm
- シート高:
  - 805 mm
- 軸間距離:
  - 1395 mm
- 最低地上高:
  - 150 mm

重量:
- 車両重量:
  - 187 kg
- 乗車定員:
  - 2 名

性能:
- 最小回転半径:
  - 2.8 m

エンジン:
- 行程:
  - 4 ストローク
- 冷却方式:
  - 水冷
- 動弁機構:
  - DOHC
- 配列:
  - 直列
- 気筒数:
  - 2 気筒
- 総排気量:
  - 688 cm^3

フロントブレーキ:
- ブレーキ形式:
  - 油圧式ダブルディスクブレーキ
- 指定ブレーキフルード:
  - BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ:
- ブレーキ形式:
  - 油圧式シングルディスクブレーキ
- 指定ブレーキフルード:
  - BF-4 (DOT-4)

フロントタイヤ:
- 種類:
  - チューブレス
- サイズ:
  - 120/70ZR17 M/C (58W)
- メーカー/銘柄:
  - DUNLOP/SPORTMAX Q5AF

リヤタイヤ:
- 種類:
  - チューブレス
- サイズ:
  - 180/55ZR17 M/C (73W)
- メーカー/銘柄:
  - DUNLOP/SPORTMAX Q5A

動力伝達機構:
- 1 速:
  - 2.846 (37/13)
- 2 速:
  - 2.125 (34/16)
- 3 速:
  - 1.631 (31/19)
- 4 速:
  - 1.300 (26/20)
- 5 速:
  - 1.090 (24/22)
- 6 速:
  - 0.964 (27/28)

エレクトリカル:
- 電圧:
  - 12V

バルブワット数:
- ヘッドライト:
  - LED

製品仕様

ブレーキ/テールランプ:
LED
方向指示灯（前）:
LED
方向指示灯（後）:
LED
番号灯:
5.0 W
マーカーランプ:
LED

エンジンオイル:

推奨オイル:
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量:

オイル交換時:
2.30 L
オイルフィルター取り外し時:
2.60 L

冷却水容量:

リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.15 L
ラジエターと全ての経路:
1.57 L

バッテリー:

バッテリー型式:
YTZ7S(F)
バッテリー容量:
12 V, 6.0 Ah (10 HR)

スパークプラグ:

メーカー/型式:
NGK/LMAR8A-9
プラグギャップ:
0.8–0.9 mm

JAU36645

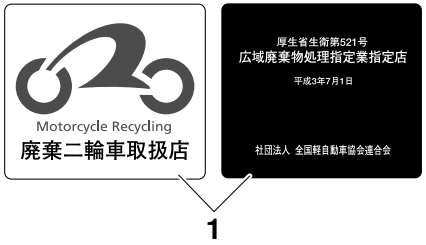
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



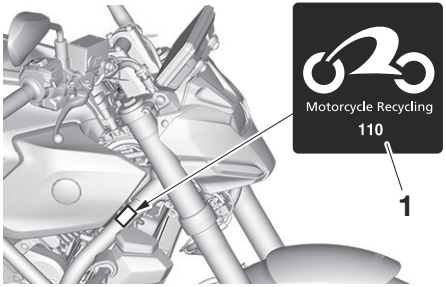
1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/
公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

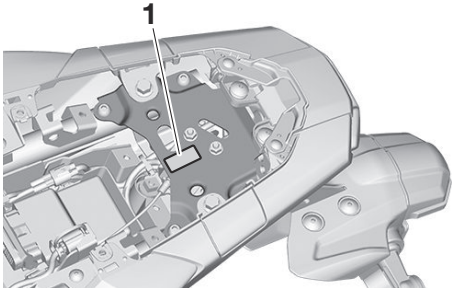
サービスマニュアル　部品番号：
QQS-CLT-000-BSH

JAU28457

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、タンデムシート下のフレームに貼り付けてあります。

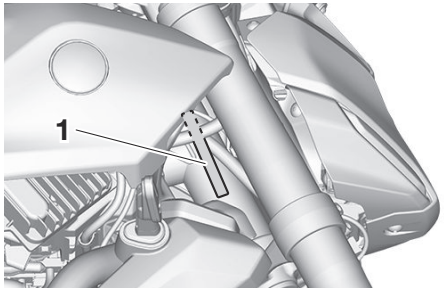


1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
MT-07 Y-AMT
モデルラベル
製品仕様を示しています。
O
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号

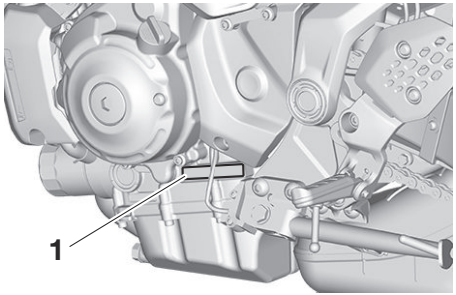


1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

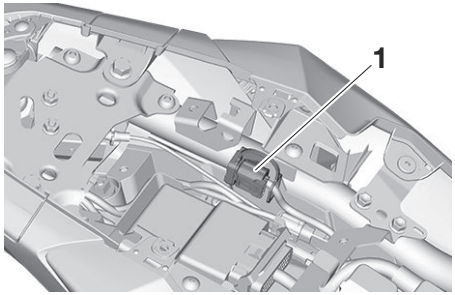


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

ユーザー情報

JAUA1211

車両情報の記録に関して

これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。

https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/

車両情報の記録と収集方法

この車両に搭載されているコンピューターは、次の３種類の車両情報を記録しています。

1）車体番号

2）エンジン/モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報

3）故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報

記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的

当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。

1）適切なメンテナンスや故障探求のため

2）適正な保証修理判定のため

3）製品の研究開発

4）製品、機能、およびサービスの品質向上のため

5）その他の事業目的を達成するため

6）法的義務の履行や係争事案対応のため

11

車両情報の提供に関して

利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および業務委託先に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口

車両情報の取扱いに関しての請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。

ヤマハ発動機株式会社
〒 438-8501 静岡県磐田市新貝 2500
dpo@yamaha-motor.co.jp
こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。
関連のないお問合せをいただいた場合、回答できないことがございます。あらかじめご了承ください。
お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

索引

あ
あなた自身と同乗者のために.....1-1
アフターケア用品について..... 9-3
アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い..... 9-2
アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）.....8-13

い
ESS（緊急停止信号）システム.....3-6
ETC コネクター..... 5-40
イグニッションサーキットカットオフシステム..... 5-41
イモビライザーシステム..... 5-2

う
運行において異常が認められた箇所の点検.....8-17

え
エアクリーナーエレメントの交換.....8-6
ABS..... 5-32
ABS 警告灯.....5-7
エンジンオイル.....8-2
エンジン警告灯.....5-6
エンジン始動.....7-1
エンジンのかかり具合、異音の点検 8-4

か
環境・住民の方との調和のために..... 1-6

き
キーの取り扱い.....5-1
ギヤチェンジのしかた..... 7-2

く
クルーズコントロールシステム.....3-3
クルーズコントロールスイッチ.....5-5

け
警告灯と表示灯.....5-6
原動機番号.....11-3

こ
故障診断コネクター..... 11-3
小物入れ.....5-37
こんなときは.....8-18

さ
サービスツール.....8-2
サービスマニュアル（別売）の紹介 11-2
サイドスタンド.....5-40

し
シート..... 5-35
シフトタイミングインジケーターランプ 5-8
シフトレバー.....5-5
車体各部の給油脂状態の点検.....8-12
車台番号.....11-2
車両情報.....11-2
車両情報の記録に関して..... 11-4
車両の特徴.....3-1
手動でギヤチェンジする..... 8-18
ジョイスティックとホームボタン.....5-5
初期設定..... 4-2
書類入れ.....5-37

す
スターター／エンジンストップスイッチ 5-4
スマートフィーチャー..... 4-1

せ
接続エラーが発生したときは.....4-7
洗車..... 9-1

た
タイヤ..... 8-6

ち
駐車..... 7-4

て
TCS（トラクションコントロールシステム）.....3-1
DC コネクター.....5-40
ディスプレイ.....5-9
低速、加速の状態の点検..... 8-4
点検整備の実施.....8-1
電話..... 4-6

と
灯火装置および方向指示灯の点検 8-17
ドライブチェーン.....8-10
ドライブチェーンの給油..... 8-11
トラクションコントロールシステム表示灯.....5-8

な
ナビゲーションシステム..... 4-4
ならし運転.....7-1

に
日常点検箇所／点検内容..... 6-1
日常点検の実施.....6-1
ニュートラルランプ.....5-6
二輪車を廃棄する場合は？.....11-1

12

ね

燃料 5-34

は

ハザードスイッチ 5-5
バックミラー 8-12
バッテリー 8-13
ハンドルスイッチ 5-3

ひ

PWR（パワーデリバリーモード） 3-1
ヒューズ交換 8-14

ふ

フューエルタンクキャップ 5-33
ブレーキ 7-3
ブレーキ液量の点検 8-9
ブレーキパッドの点検 8-9
ブレーキランプスイッチの点検 8-8
ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検 8-8
ブレーキレバーの握り調整 5-39

へ

ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ 5-4
ヘルメットホルダー 5-37

ほ

方向指示器スイッチ 5-4
方向指示器表示灯 5-6
ホーンスイッチ 5-4
保管のしかた 9-3
歩行者と他の車のために 1-5

め

メインスイッチ 5-2
メニューシステム 5-18
メニューシステムの操作 4-1

も

モデルラベル 11-2

り

リヤクッションの調整 5-38

れ

冷却水 8-4

わ

YRC（ヤマハライドコントロール） 3-1
YRC モードボタン 5-5
Y-AMT（ヤマハオートメイティドマニュアルトランスミッション） 3-2
Y-AMT 故障表示灯 5-7
Y-AMT スイッチ 5-6

Yamaha Motorcycle Connect

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

QQS-CLT-100-BSH

PRINTED IN JAPAN
2024.11-0.1×1 NK (J)